

## 令和 5 年度 結婚等に関する県民意識調査結果（中間報告）

### 1. 調査目的

県内在住の 18 歳から 39 歳の方を対象に結婚や出産についての率直な思いや意識を調査し、今後の県の結婚支援施策や少子化対策に役立てることを目的とする。

### 2. 調査の設計

- (1) 調査地域 富山県全域
- (2) 調査対象 県内在住の 18 歳から 39 歳の男女 2,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳より層化無作為抽出
- (4) 調査方法 質問紙郵送、郵送回答及びインターネット回答の併用
- (5) 調査時期 令和 5 年 9 月 29 日～10 月 13 日
- (6) 調査機関 株式会社東京商工リサーチ

### 3. 回収結果

発送数 2,000 件

回収数 576 件（回収率 28.8%）

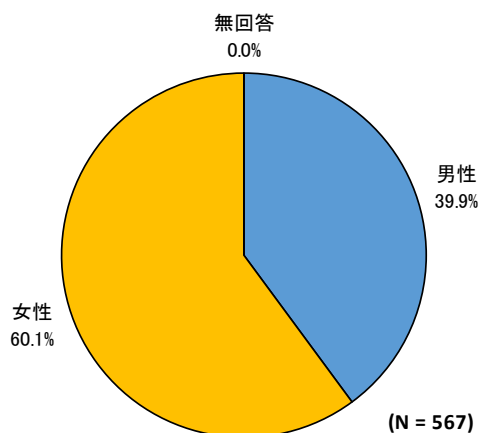
有効回答数 567 件

### 4. 報告書内のデータ記述について

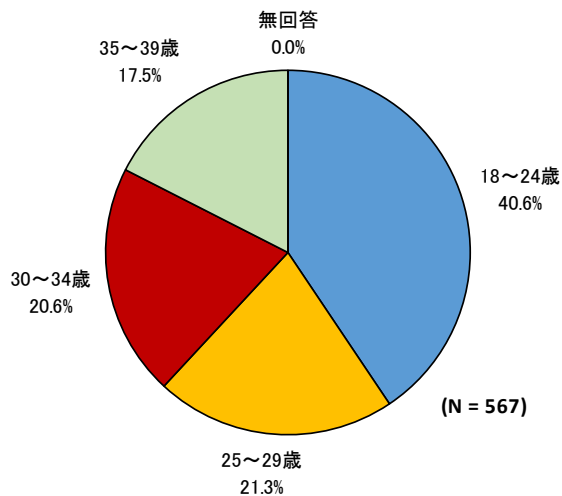
- (1) 比較に使用した前回調査は、令和元年度「結婚等に関する県民意識調査」（調査対象：県内在住の 20 代から 30 代の男女 2,000 人）である。前回調査との比較においては、今回調査の回答のうち 20 代から 30 代のもののみを抽出して比較している。
- (2) 比率はすべて百分率で表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が 100%にならないことがある。
- (3) 基数とすべき実数は図表中に「N」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。
- (4) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。
- (5) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。

# 回答者の属性

## 1. 性別



## 2. 年齢

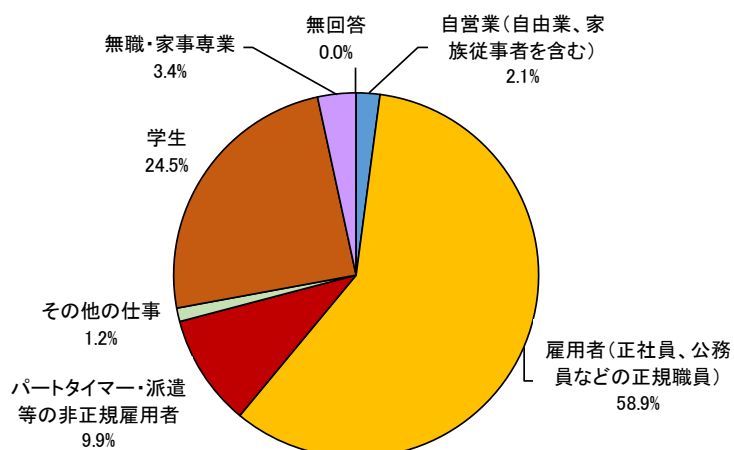


## 3. 居住地

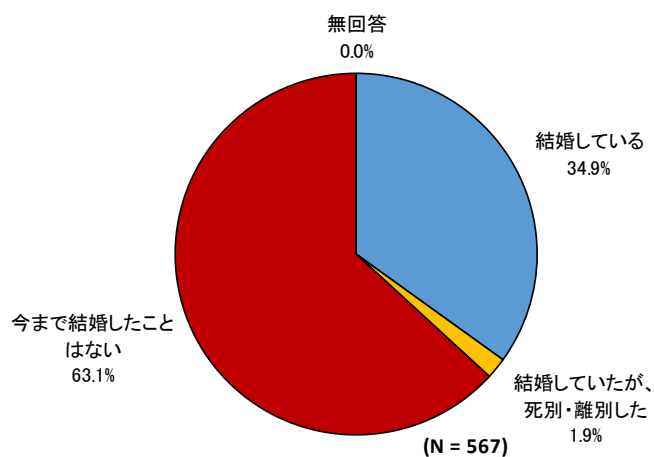
| 居住地  | 回答者数 | 構成比 (%) |
|------|------|---------|
| 富山市  | 230  | 40.6    |
| 高岡市  | 83   | 14.6    |
| 魚津市  | 21   | 3.7     |
| 氷見市  | 11   | 1.9     |
| 滑川市  | 19   | 3.4     |
| 黒部市  | 22   | 3.9     |
| 砺波市  | 38   | 6.7     |
| 小矢部市 | 15   | 2.6     |
| 南砺市  | 23   | 4.1     |
| 射水市  | 55   | 9.7     |
| 舟橋村  | 5    | 0.9     |
| 上市町  | 11   | 1.9     |
| 立山町  | 16   | 2.8     |
| 入善町  | 13   | 2.3     |
| 朝日町  | 4    | 0.7     |
| 無回答  | 1    | 0.2     |

(N = 567)

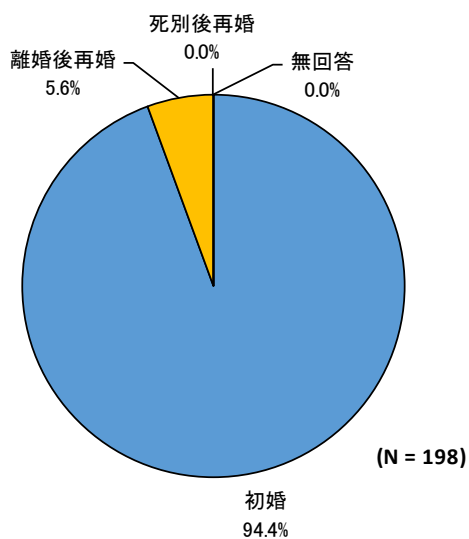
## 4. 職業



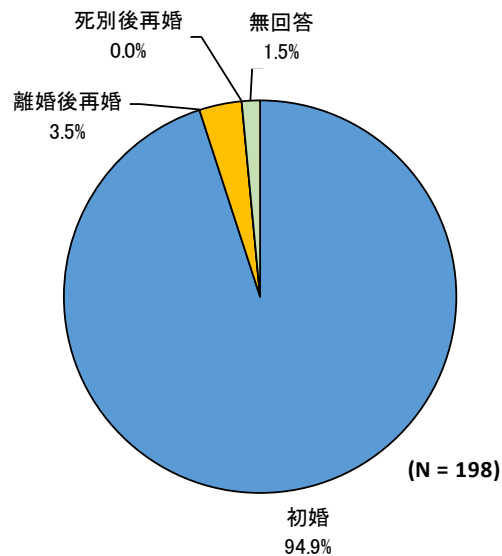
## 5. 結婚の状況



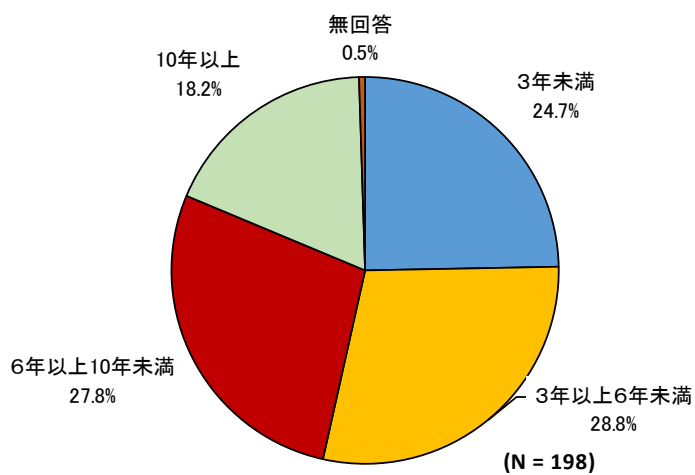
## 6. 初再婚の別 (「結婚している」人について、調査対象者本人)



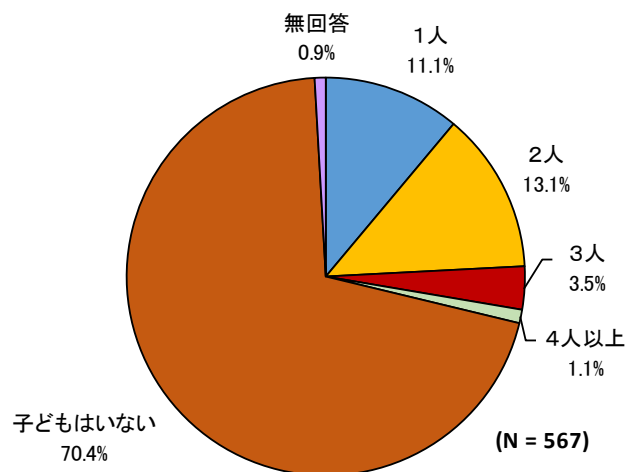
## 7. 初再婚の別 (「結婚している」人について、調査対象者の配偶者)



## 8. 結婚年数



## 9. 子どもの人数



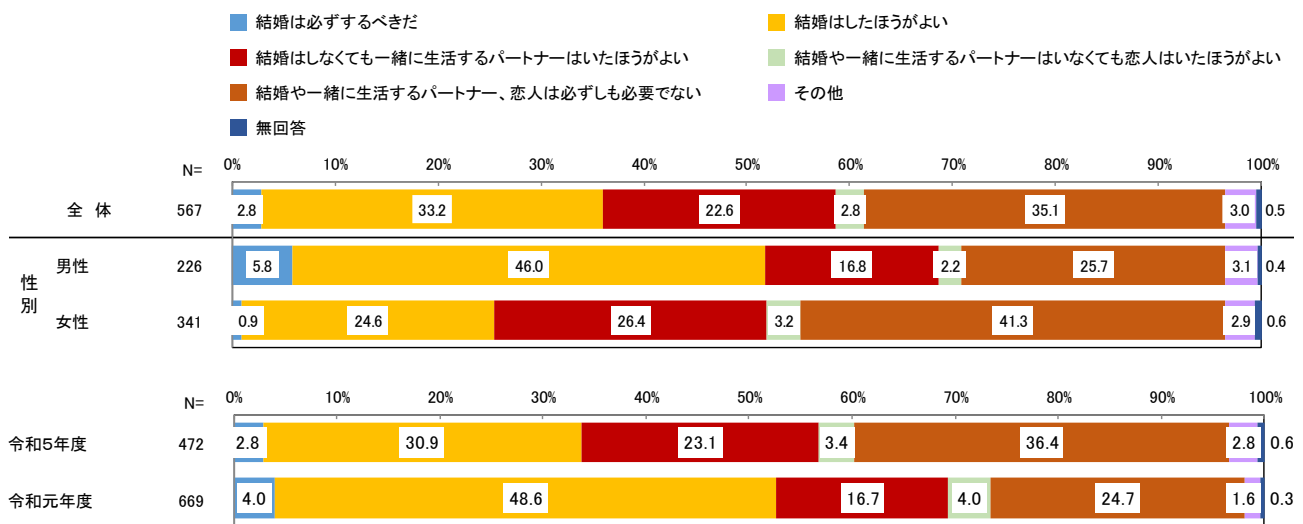
# 調査結果

## 問1 結婚についての自身の考え

**全体**では、「結婚や一緒に生活するパートナー、恋人は必ずしも必要でない」が 35.1%と最も高く、次いで「結婚はしたほうがよい」が 33.2%、「結婚はしなくても一緒に生活するパートナーはいたほうがよい」が 22.6%となっている。

**性別**でみると、男性では「結婚はしたほうがよい」が 46.0%で最も高い一方で、女性では「結婚や一緒に生活するパートナー、恋人は必ずしも必要でない」が 41.3%で最も高くなっている。

**前回調査**と比較すると、「結婚はしたほうがよい」は 17.7 ポイント減少した一方で、「結婚や一緒に生活するパートナー、恋人は必ずしも必要でない」は 11.7 ポイント増加した。結婚に前向きな「結婚は必ずするべきだ」「結婚はしたほうがよい」を合わせると、前回は 52.6%、今回は 33.7%と大幅に減少した。

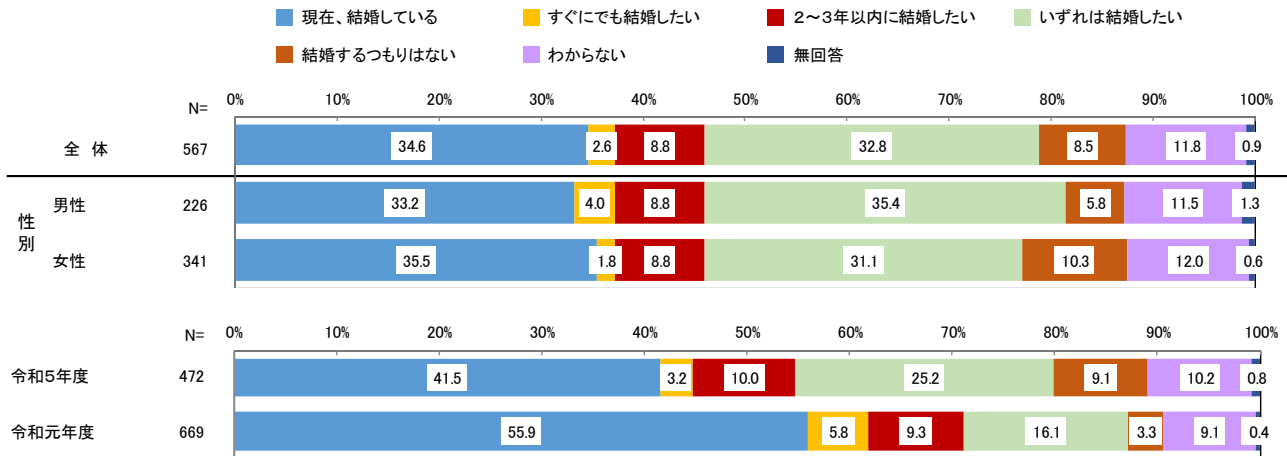


## 問2 自身の結婚の時期

全体では、「現在、結婚している」が 34.6%と最も高く、次いで「いずれは結婚したい」が 32.8%、「わからない」が 11.8%となっている。

性別でみると、男性では「いずれは結婚したい」が 35.4%で最も高い一方で、女性では「現在、結婚している」が 35.5%で最も高くなっている。また、「すぐにでも結婚したい」「2～3年以内に結婚したい」と3年以内に結婚したい人の割合では、男性が 12.8%に対し女性が 10.6%となっている。

前回調査と比較すると、「現在、結婚している」は 14.4ポイント減少し、「いずれは結婚したい」は 9.1ポイント増加した。

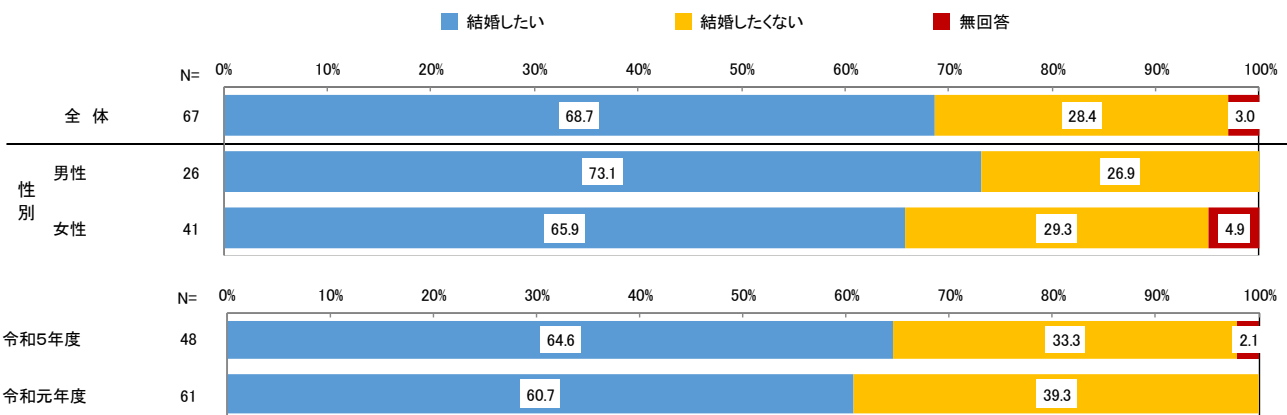


## 自身の結婚の時期についてあえて選ぶなら（問2で「わからない」を選んだ人）

全体では、「結婚したい」が 68.7%、「結婚したくない」が 28.4%となっており、結婚の時期について「わからない」と回答した人も約7割は「あえて選ぶなら結婚したい」と考えている。

性別でみると、「結婚したい」を選んだ人の方が男女ともに高く、男性（73.1%）が女性（65.9%）より 7.2ポイント高くなっている。

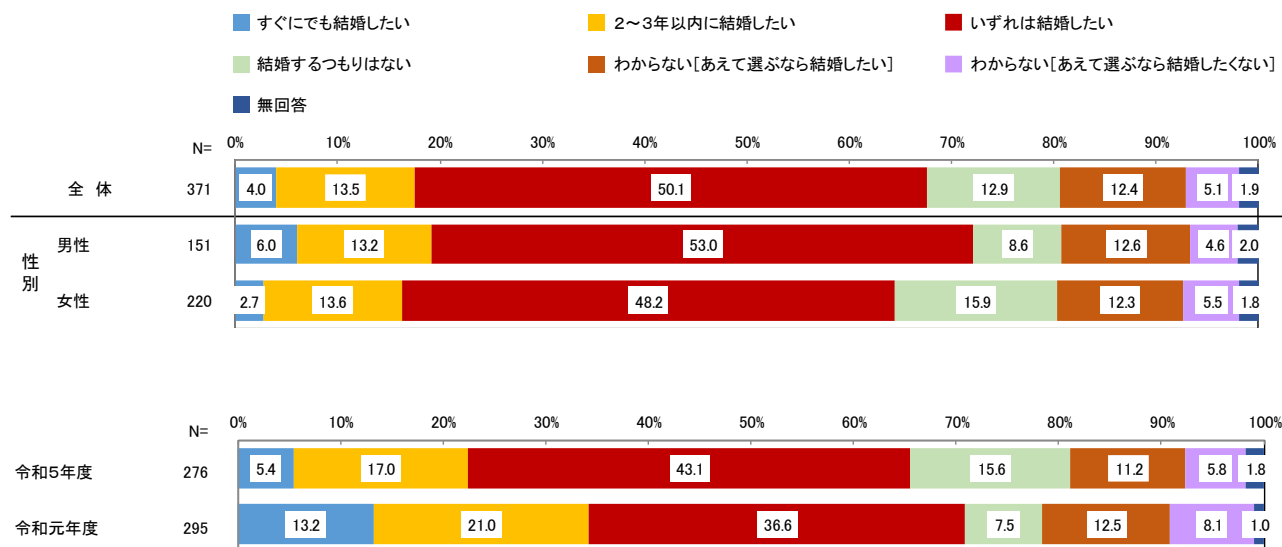
前回調査と比較すると、「結婚したい」は 3.9ポイント増加し、「結婚したくない」は 6.0ポイント減少した。



## 結婚していない人の自身の結婚の時期について

問2で「現在、結婚している」を選んだ人を除いた結婚していない人を対象に、さらに「わからない」の回答については「あえて選ぶなら結婚したい／結婚したくない」で細分化してみると、時期を特定しなければ、80.0%は「結婚したい」と回答している。

前回調査と比較すると、時期を特定せず「結婚したい」と回答した人は76.7%であり、前回の83.3%と比較して6.6ポイント減少した。

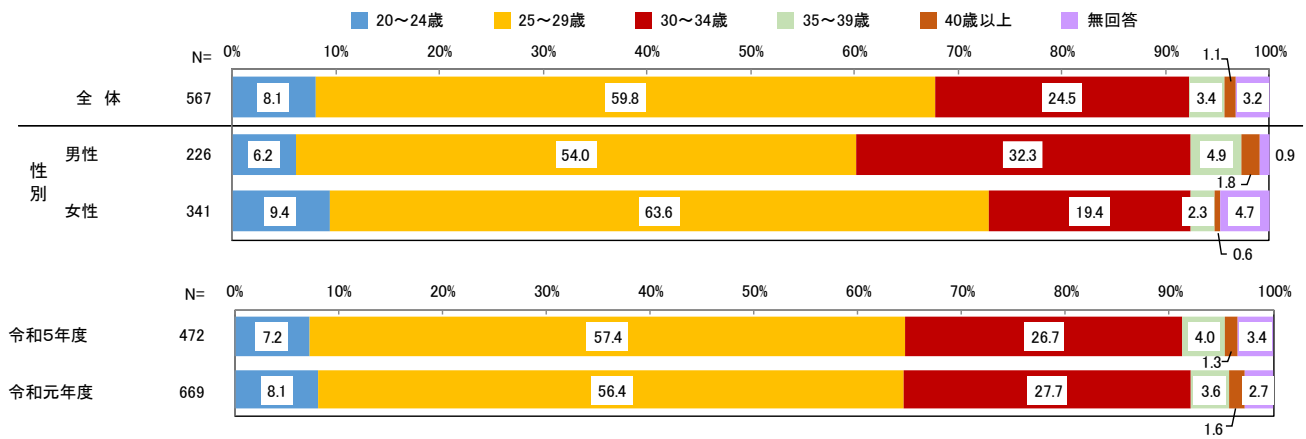


### 問3 理想の結婚年齢

全体では、「25～29歳」が59.8%と最も高く、次いで「30～34歳」が24.5%、「20～24歳」が8.1%となっている。

性別で見ると、男性では「20代（20～29歳）」が60.2%、「30代（30～39歳）」が37.2%であるのに対し、女性では「20代」が73.0%、「30代」が21.7%となっており、男女間で差がある。

前回調査と比較すると、「20代」は0.1ポイント増加、「30代」は0.6ポイント減少と、ほぼ同様であった。



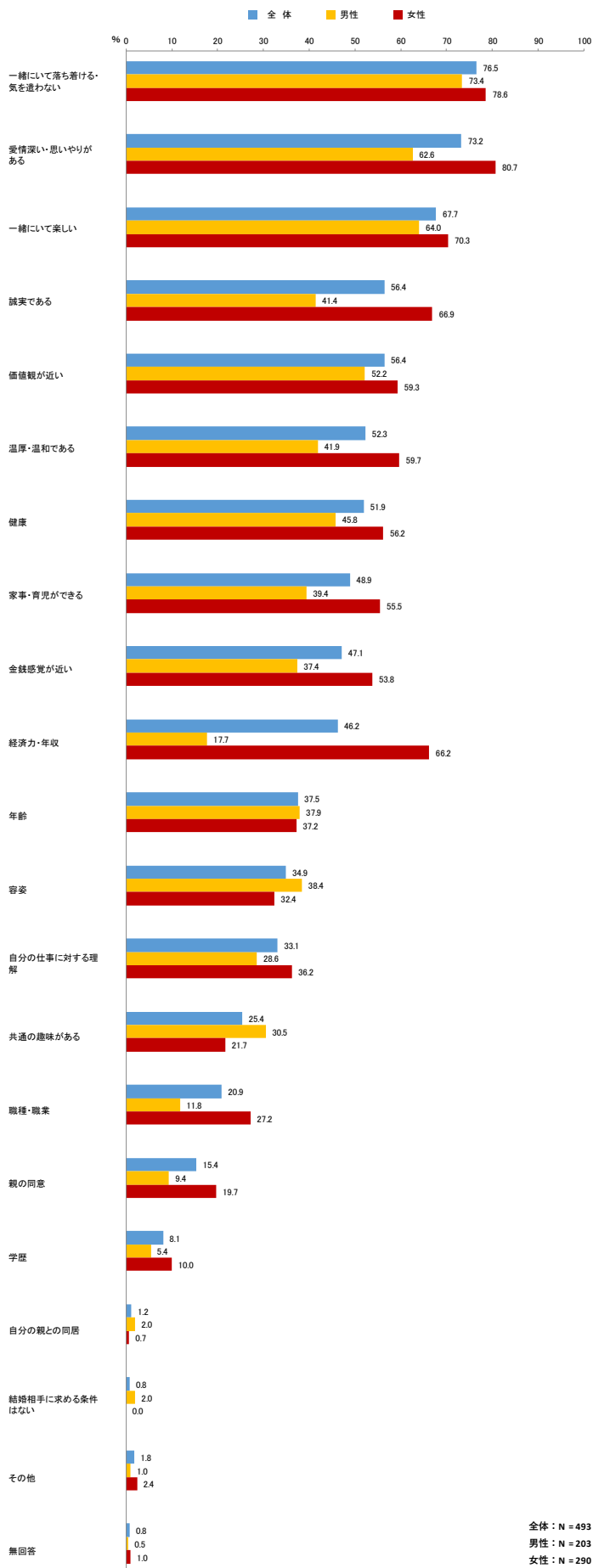
問4-1 結婚相手に求める条件（すでに結婚している人、将来結婚したい人：複数回答）

**全体**では、「一緒にいて落ち着ける・気を遣わない」が76.5%と最も高く、次いで「愛情深い・思いやりがある」が73.2%、「一緒にいて楽しい」が67.7%となっている。

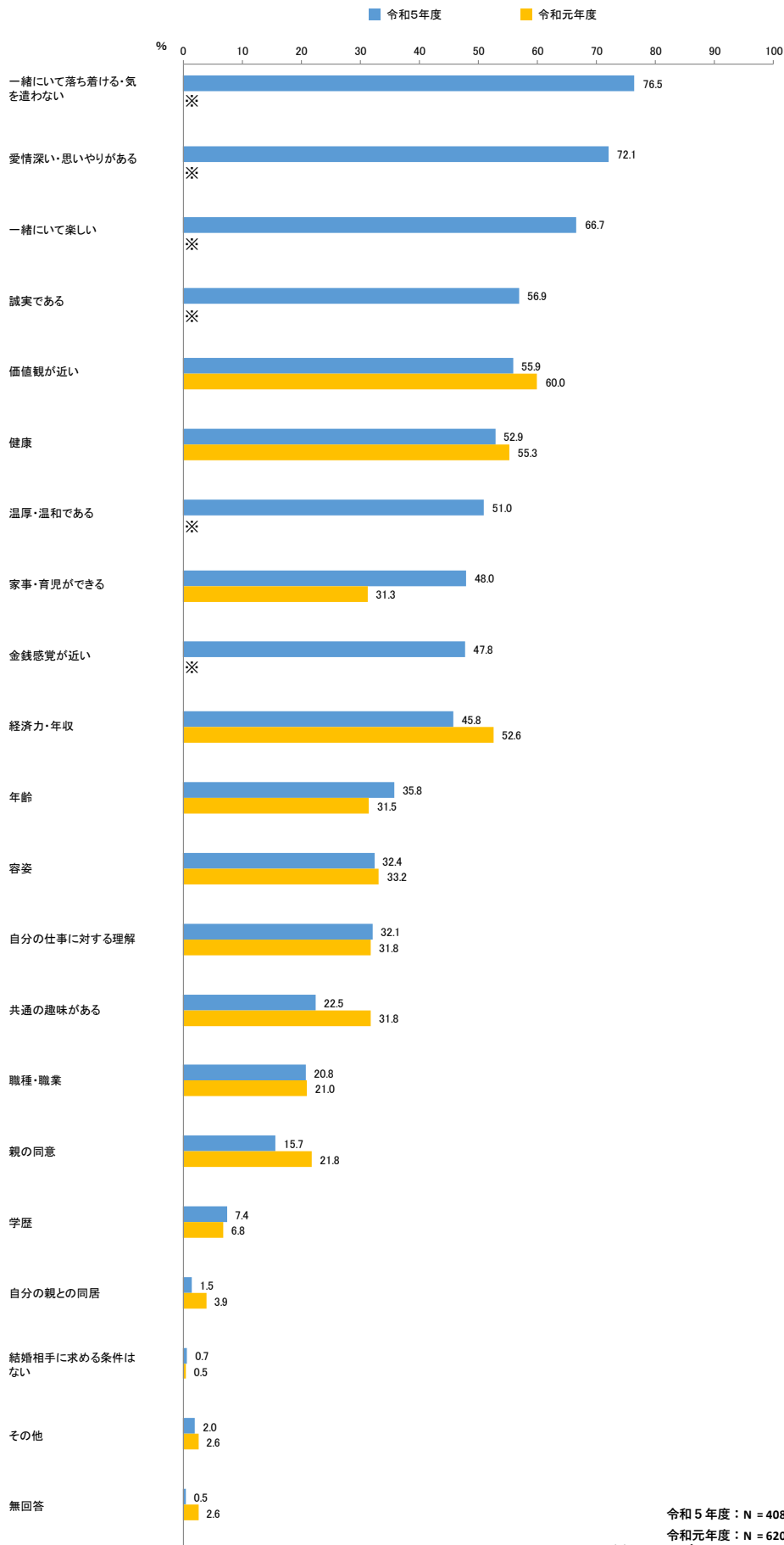
**性別**で見ると、男性では「一緒にいて落ち着ける・気を遣わない」が73.4%で最も高い一方で、女性では「愛情深い・思いやりがある」が80.7%で最も高くなっている。

**前回調査**と同一の項目についてのみ比較すると、「家事・育児ができる」は16.7ポイント増加した。「価値観が近い」（前回：「自分と共通の価値観」）は前回同様に上位の順位となっている。





全体：N = 493  
 男性：N = 203  
 女性：N = 290



令和5年度：N = 408

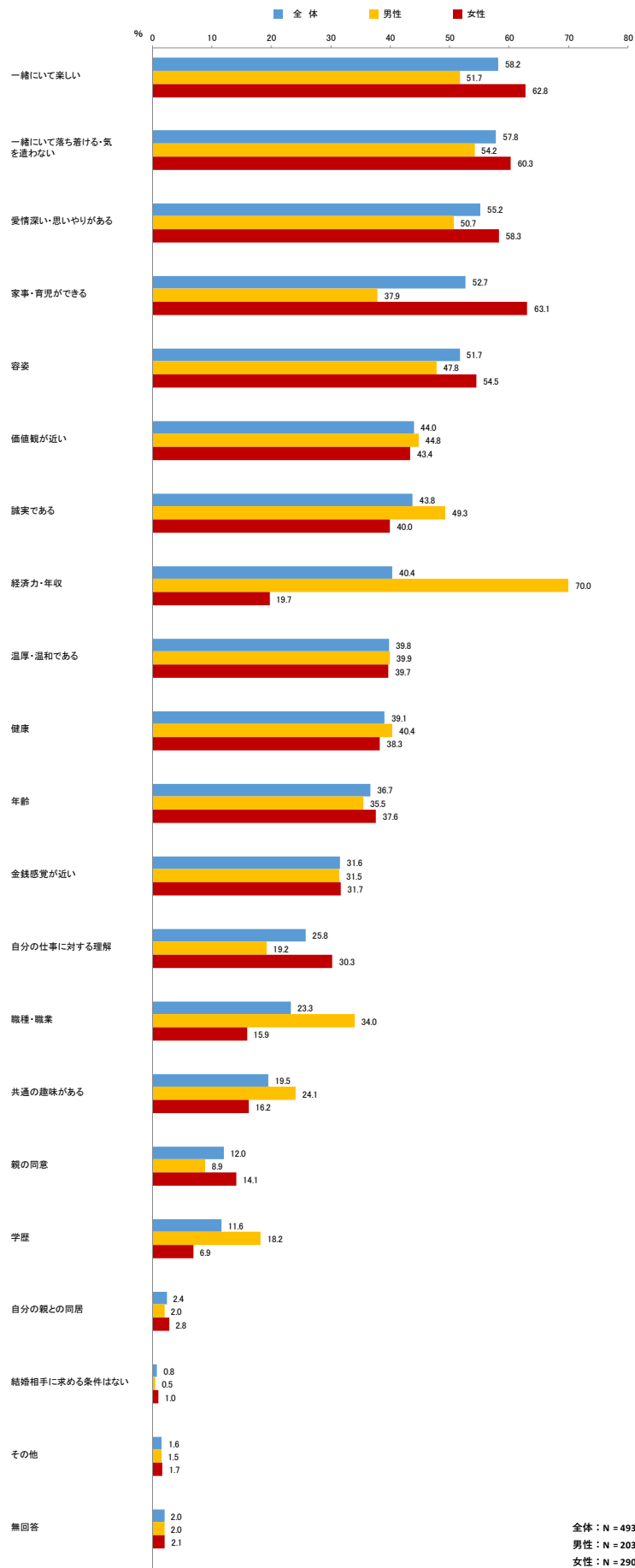
令和元年度：N = 620

※前回調査項目なし

問4-2 異性から結婚相手として求められていると思う条件（すでに結婚している人、将来結婚したい人：複数回答）

**全体**では、「一緒にいて楽しい」が58.2%と最も高く、次いで「一緒にいて落ち着ける・気を遣わない」が57.8%、「愛情深い・思いやりがある」が55.2%となっている。

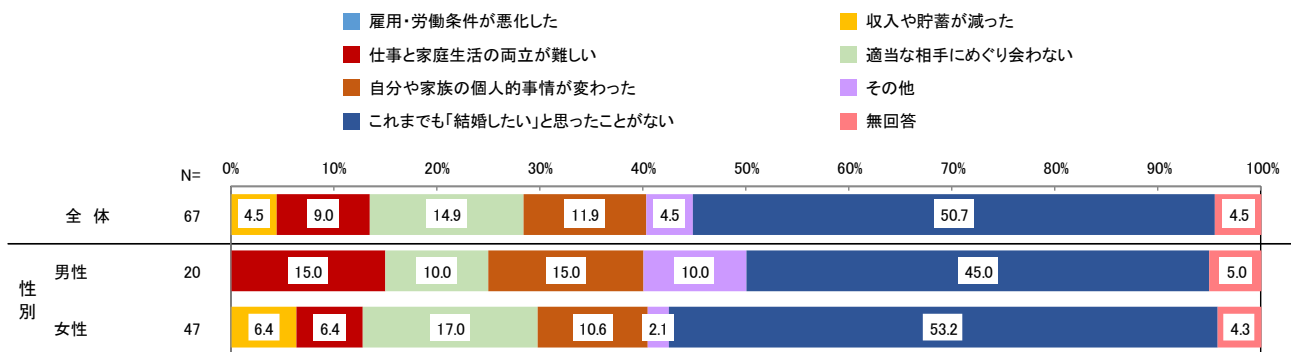
**性別**で見ると、男性では「経済力・年収」が70.0%で最も高い一方で、女性では「家事・育児ができる」が63.1%で最も高くなっている。



問5-1 これまでに「結婚したい」と思っていたが、「結婚するつもりはない、結婚したくない」に変わった理由（結婚するつもりはない人、結婚したくない人）

全体では、「これまでも「結婚したい」と思ったことがない」が50.7%と最も高く、次いで「適当な相手にめぐり合わない」が14.9%、「自分や家族の個人的事情が変わった」が11.9%となっている。

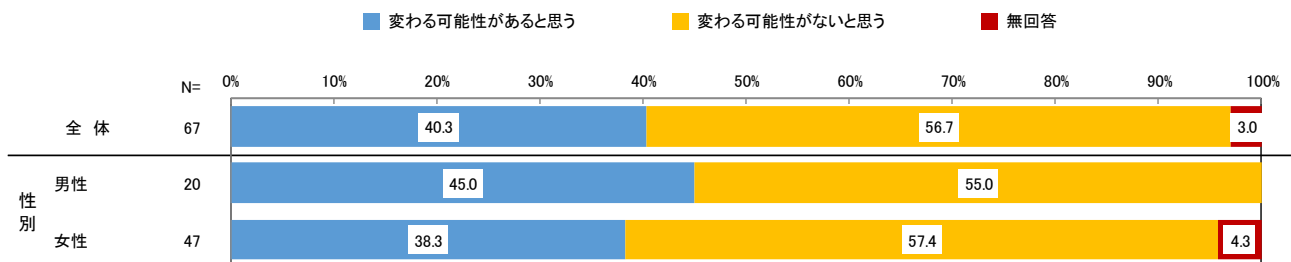
性別で見ると、男女ともに「これまでも「結婚したい」と思ったことがない」が最も高いが、次いで男性では「仕事と家庭生活の両立が難しい」及び「自分や家族の個人的事情が変わった」が15.0%で高く、女性では「適当な相手にめぐり合わない」が17.0%で高くなっている。



問5-2 今後考えが「結婚したい」に変わる可能性（結婚するつもりはない人、結婚したくない人）

全体では、「変わる可能性がないと思う」が56.7%、「変わる可能性があると思う」が40.3%となっている。

性別で見ると、「変わる可能性がないと思う」のほうが男女ともに高く、女性（57.4%）が男性（55.0%）より2.4ポイント高くなっている。



問5-3 考えが変わるにあたって影響が大きいと思うもの（問5-2で「変わる可能性があると思う」を選んだ人：上位3つまで）

(%)

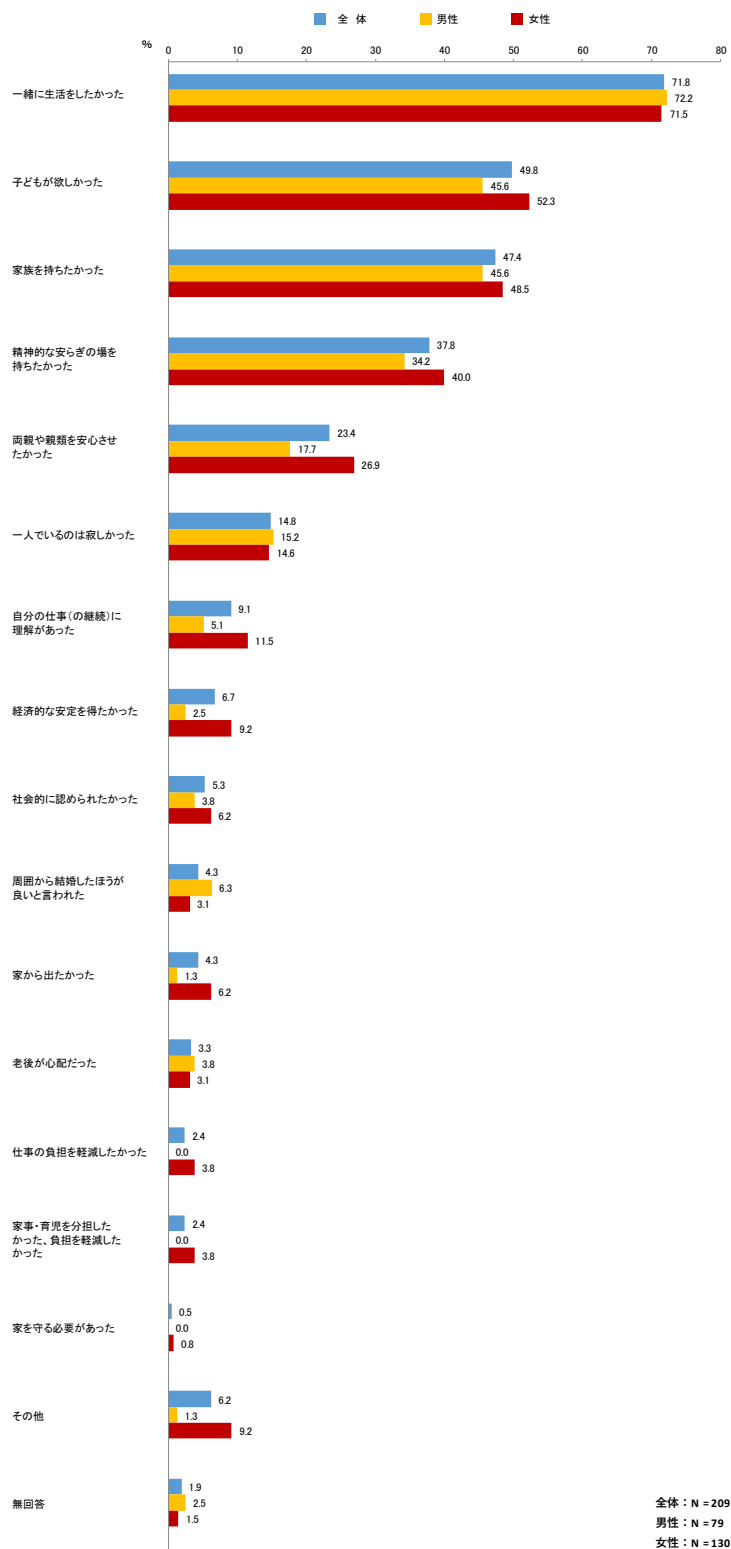
|    | 全体 (N=27)          |       | 男性 (N=9)             |       | 女性 (N=18)            |       |
|----|--------------------|-------|----------------------|-------|----------------------|-------|
| 1位 | 結婚したいと思う相手が現れる     | 48.1% | 結婚したいと思う相手が現れる       | 44.4% | 結婚したいと思う相手が現れる       | 50.0% |
|    | 収入や貯蓄が増える          | 14.8% | 収入や貯蓄が増える            | 22.2% | 収入や貯蓄が増える            | 11.1% |
|    | 異性と出会う機会が増える       | 11.1% | 異性と出会う機会が増える         | 11.1% | 結婚に関する法律や制度が変わる      | 11.1% |
|    | -                  | -     | -                    | -     | 異性と出会う機会が増える         | 11.1% |
| 2位 | 収入や貯蓄が増える          | 18.5% | 収入や貯蓄が増える            | 11.1% | 収入や貯蓄が増える            | 22.2% |
|    | 雇用・労働条件が改善する       | 11.1% | 結婚したいと思う相手が現れる       | 11.1% | 雇用・労働条件が改善する         | 16.7% |
|    | 結婚したいと思う相手が現れる     | 11.1% | 自分や家族の個人的事情が変わる      | 11.1% | 家族を養う責任を男女ともに担う社会になる | 11.1% |
|    | -                  | -     | -                    | -     | 結婚したいと思う相手が現れる       | 11.1% |
| 3位 | 子育て支援策が充実する        | 14.8% | 雇用・労働条件が改善する         | 11.1% | 子育て支援策が充実する          | 22.2% |
|    | 収入や貯蓄が増える          | 11.1% | 家族を養う責任を男女ともに担う社会になる | 11.1% | 収入や貯蓄が増える            | 16.7% |
|    | 家事・育児を男女で分け合う社会になる | 11.1% | その他                  | 11.1% | 家事・育児を男女で分け合う社会になる   | 16.7% |

※各順位について、回答の多かった3つまでを記載。

問6 配偶者と結婚した理由（「結婚経験あり」の人：複数回答）

全体では、「一緒に生活をしたかった」が71.8%と最も高く、次いで「子どもが欲しかった」が49.8%、「家族を持ちたかった」が47.4%となっている。

性別で見ると、「一緒に生活をしたかった」が男女ともに7割を超え最も高く、男女間の差が大きいのは「両親や親類を安心させたかった」で、女性（26.9%）が男性（17.7%）より9.2ポイント高くなっている。

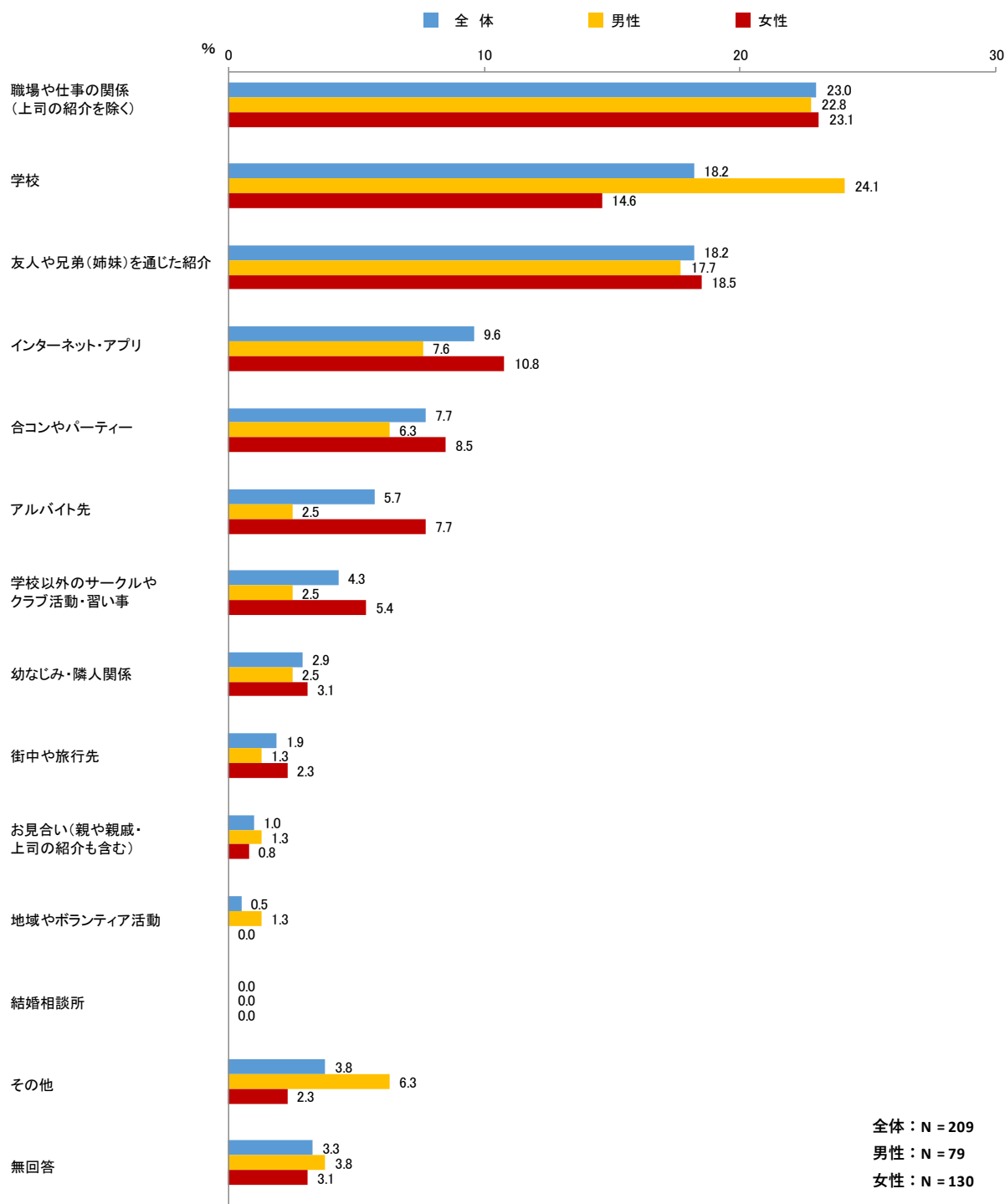


問 7 - 1 配偶者と知り合ったきっかけ（「結婚経験あり」の人）

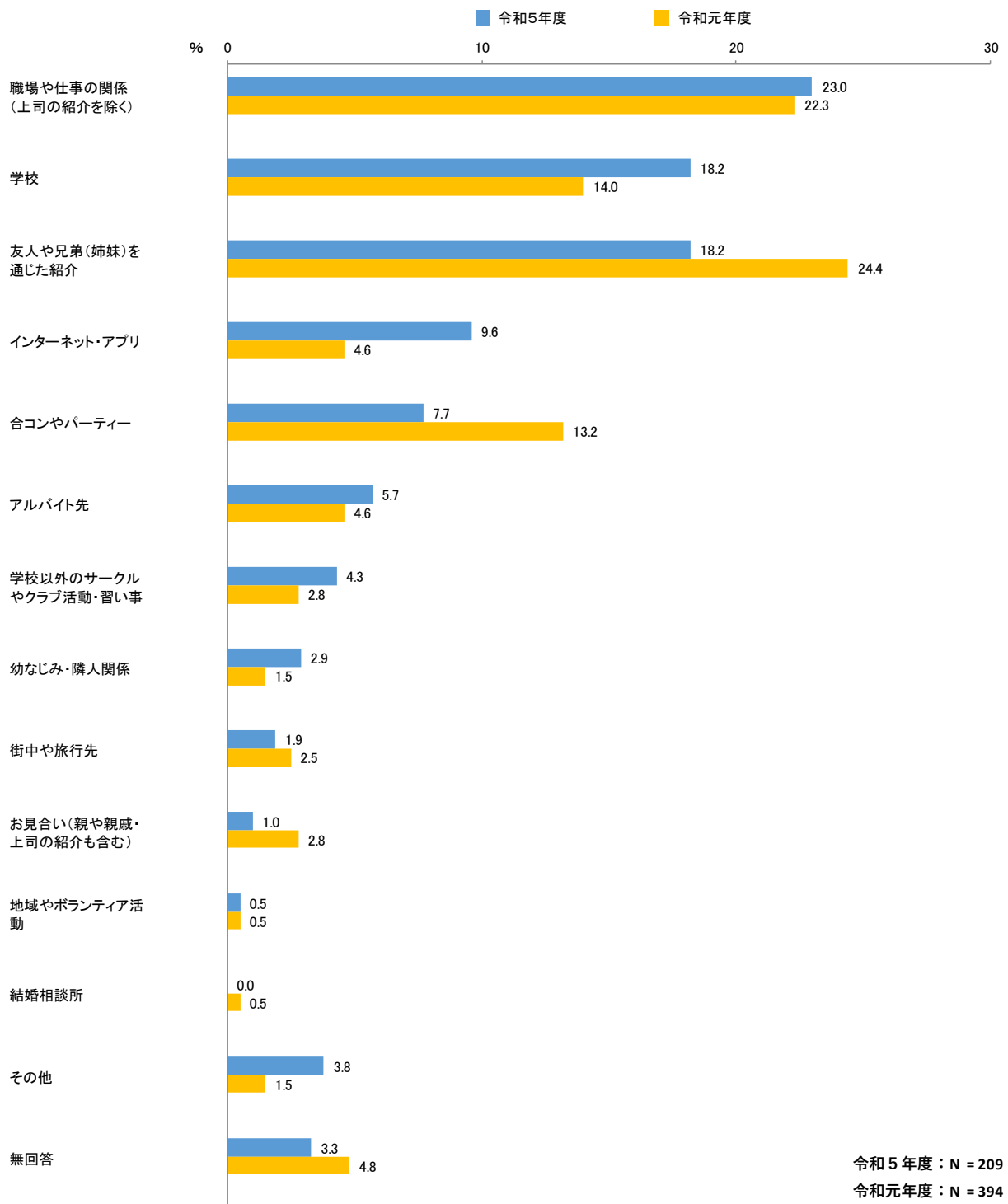
全体では、「職場や仕事の関係（上司の紹介を除く）」が 23.0%と最も高く、次いで「学校」及び「友人や兄弟（姉妹）を通じた紹介」が 18.2%となっている。

性別で見ると、男性では「学校」が 24.1%で最も高い一方で、女性では「職場や仕事の関係（上司の紹介を除く）」が 23.1%で最も高くなっている。

前回調査と比較すると、最も増加したのは「インターネット・アプリ」で、5.0ポイントの増加であった。一方で、「友人や兄弟（姉妹）を通じた紹介」は 6.2ポイント、「合コンやパーティー」は 5.5ポイント減少した。





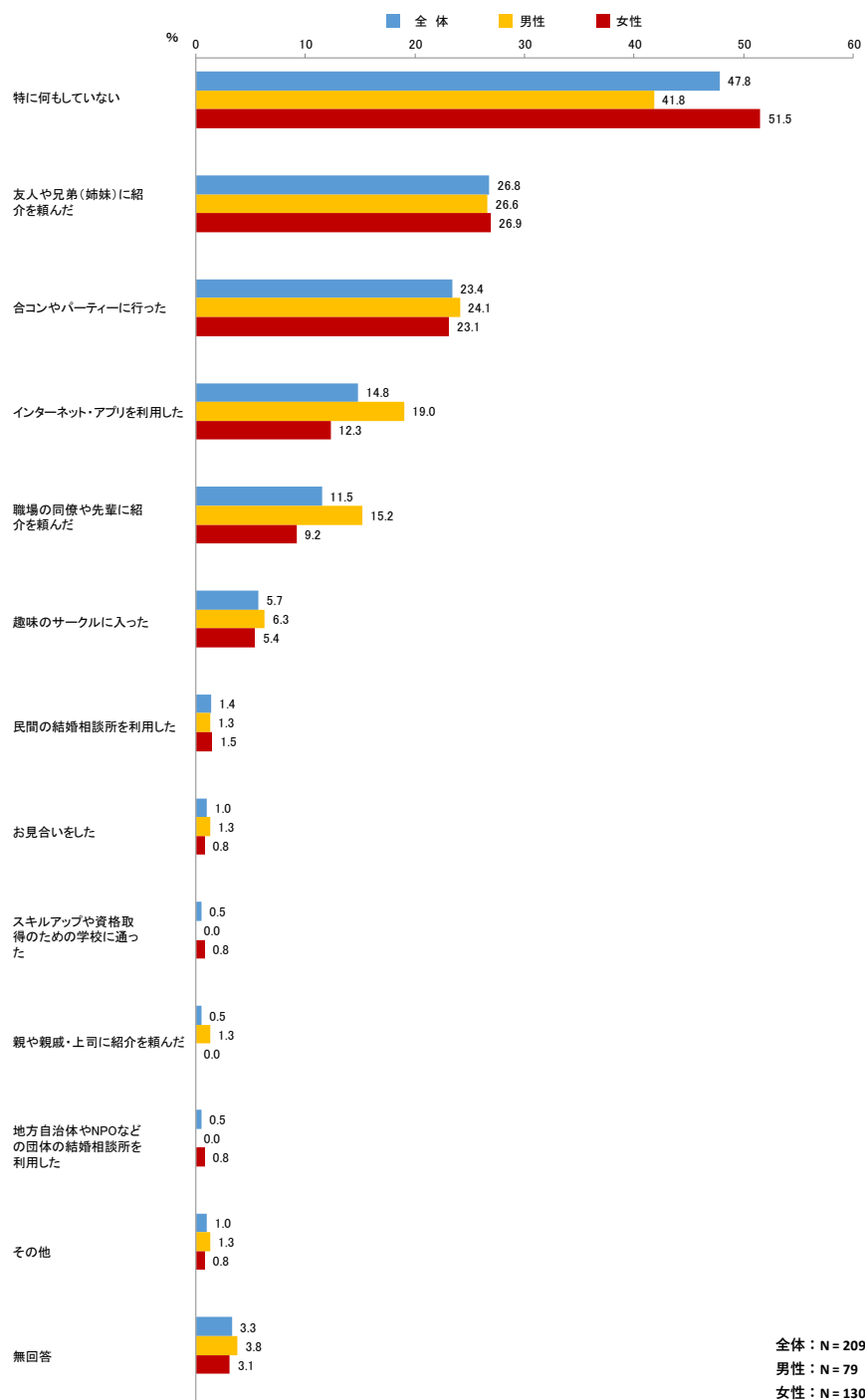


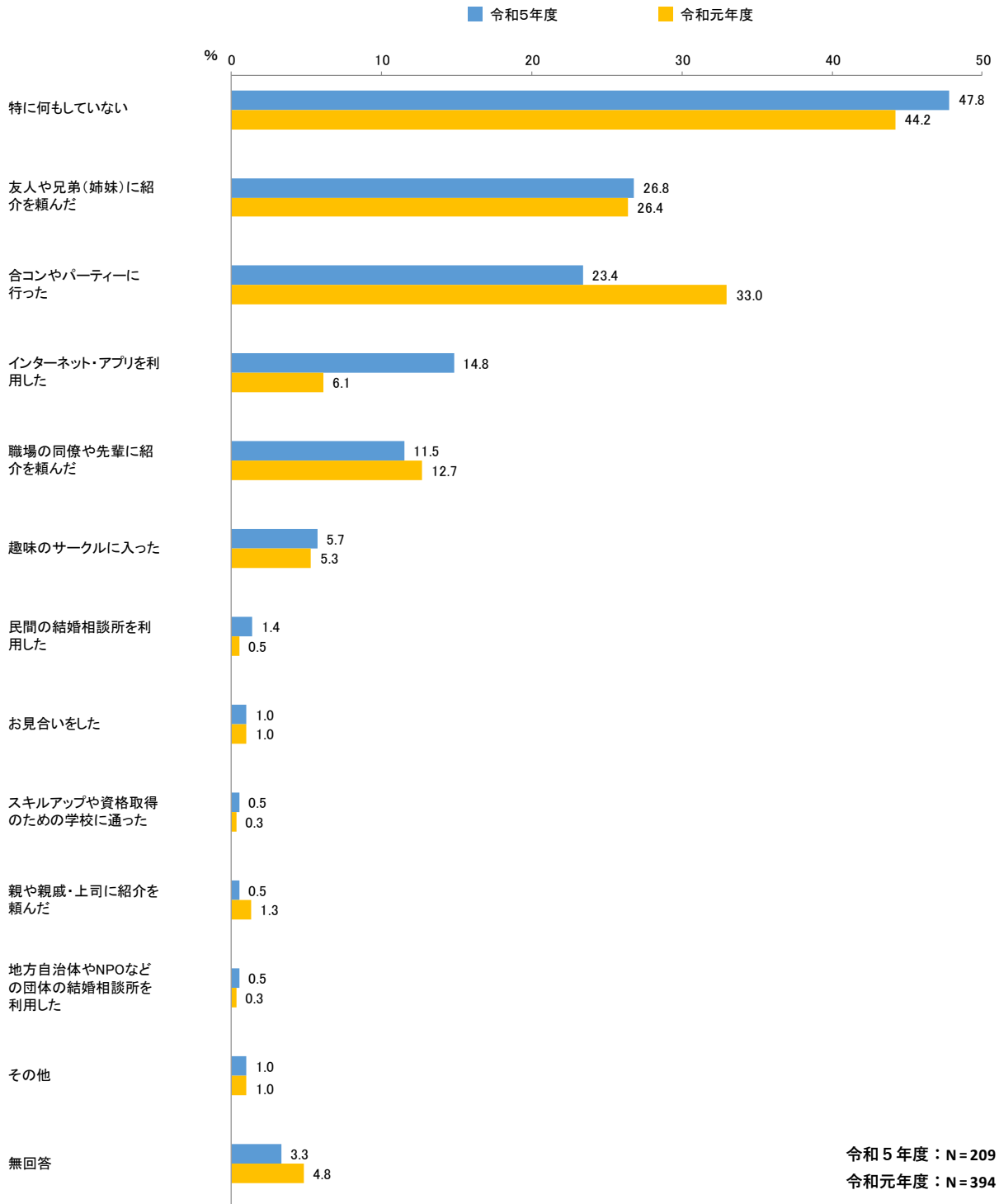
問7-2 配偶者と交際を始める前、交際相手に出会うことを期待して行ったこと（「結婚経験あり」の人：複数回答）

全体では、「特に何もしていない」が47.8%と最も高く、次いで「友人や兄弟（姉妹）に紹介を頼んだ」が26.8%、「合コンやパーティーに行った」が23.4%となっている。

性別で見ると、男女間の差が大きいのは「インターネット・アプリを利用した」で、男性（19.0%）が女性（12.3%）より6.7ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、最も増加したのは「インターネット・アプリを利用した」で、8.7ポイントの増加であった。一方で、「合コンやパーティーに行った」は9.6ポイント減少した。





問8-1 現在結婚していない理由（「未婚」の人：上位3つまで）

(%)

|    | 全体 (N=358)            |       | 男性 (N=147)            |       | 女性 (N=211)            |       |
|----|-----------------------|-------|-----------------------|-------|-----------------------|-------|
| 1位 | まだ若いから                | 27.7% | まだ若いから                | 28.6% | まだ若いから                | 27.0% |
|    | 適当な相手にめぐり会わない         | 20.9% | 適当な相手にめぐり会わない         | 22.4% | 適当な相手にめぐり会わない         | 19.9% |
|    | 結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない | 8.1%  | 結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない | 12.2% | 仕事（学業）に打ち込みたい         | 11.4% |
| 2位 | 仕事（学業）に打ち込みたい         | 14.8% | 仕事（学業）に打ち込みたい         | 15.0% | 仕事（学業）に打ち込みたい         | 14.7% |
|    | 適当な相手にめぐり会わない         | 11.5% | 異性とうまくつきあえない          | 12.2% | 自由や気楽さを失いたくない         | 12.8% |
|    | 自由や気楽さを失いたくない         | 11.5% | 適当な相手にめぐり会わない         | 11.6% | 適当な相手にめぐり会わない         | 11.4% |
| 3位 | 適当な相手にめぐり会わない         | 12.6% | 適当な相手にめぐり会わない         | 15.6% | 自由や気楽さを失いたくない         | 14.7% |
|    | 結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない | 12.6% | 結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない | 12.9% | 結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない | 12.3% |
|    | 自由や気楽さを失いたくない         | 12.3% | 趣味や娯楽を楽しみたい           | 9.5%  | 趣味や娯楽を楽しみたい           | 11.8% |

※各順位について、回答の多かった3つまでを記載。

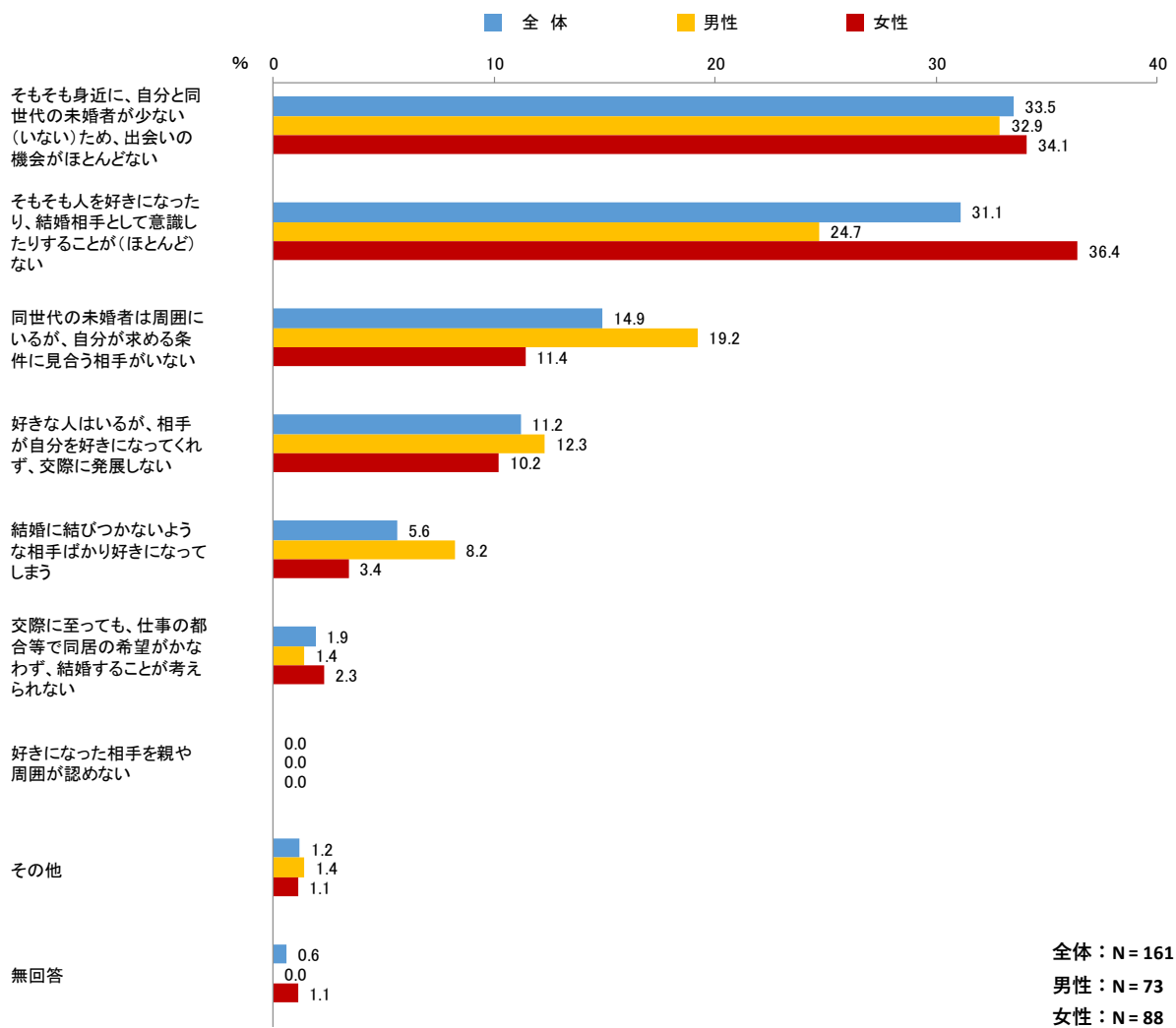
(%)

|                | 前回 全体 (N=274)         |       |
|----------------|-----------------------|-------|
| 複数回答<br>(3つまで) | 適当な相手にめぐり会わない         | 52.2% |
|                | 自由や気楽さを失いたくない         | 24.1% |
|                | 趣味や娯楽を楽しみたい           | 23.0% |
|                | 結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない | 21.5% |
|                | まだ若いから                | 19.7% |
|                | 異性とうまくつきあえない          | 18.6% |
|                | 必要性を感じない              | 17.5% |
|                | 仕事（学業）に打ち込みたい         | 11.7% |
|                | 仕事が忙しすぎるから            | 10.9% |
|                | 結婚するつもりがない            | 7.3%  |
|                | 雇用が安定しない              | 6.2%  |
|                | 親や周囲が同意しない            | 1.8%  |
|                | 住宅のめどが立たない            | 1.5%  |
|                | その他                   | 6.9%  |

問 8 - 2 適当な相手にめぐり会わない理由（「問 8 - 1 で「適当な相手にめぐり会わない」を選んだ人）

全体では、「そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない（いない）ため、出会いの機会がほとんどない」が 33.5%と最も高く、次いで「そもそも人を好きになったり、結婚相手として意識したりすることが（ほとんど）ない」が 31.1%、「同世代の未婚者は周囲にいるが、自分が求める条件に見合う相手がない」が 14.9%となっている。

性別で見ると、男性では「そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない（いない）ため、出会いの機会がほとんどない」が 32.9%で最も高い一方で、女性では「そもそも人を好きになったり、結婚相手として意識したりすることが（ほとんど）ない」が 36.4%で最も高くなっている。



問 8 - 3 結婚や結婚後の生活に係る費用で、負担が大きいと感じるもの（問 8 - 1 で「結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない」を選んだ人：上位 3 つまで）

(%)

|     | 全体 (N=107)                 |       | 男性 (N=50)                  |       | 女性 (N=57)                  |       |
|-----|----------------------------|-------|----------------------------|-------|----------------------------|-------|
| 1 位 | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用     | 42.1% | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用     | 42.0% | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用     | 42.1% |
|     | 結婚生活のための住居取得費、新生活の準備のための資金 | 18.7% | 結婚後の日常生活に係る費用              | 22.0% | 結婚生活のための住居取得費、新生活の準備のための資金 | 17.5% |
|     | 結婚後の日常生活に係る費用              | 16.8% | 結婚生活のための住居取得費、新生活の準備のための資金 | 20.0% | 奨学金の返済に係る費用                | 14.0% |
| 2 位 | 結婚生活のための住居取得費、新生活の準備のための資金 | 36.4% | 結婚後の日常生活に係る費用              | 32.0% | 結婚生活のための住居取得費、新生活の準備のための資金 | 42.1% |
|     | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用     | 27.1% | 結婚生活のための住居取得費、新生活の準備のための資金 | 30.0% | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用     | 28.1% |
|     | 結婚後の日常生活に係る費用              | 23.4% | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用     | 26.0% | 結婚後の日常生活に係る費用              | 15.8% |
| 3 位 | 結婚後の日常生活に係る費用              | 29.9% | 結婚生活のための住居取得費、新生活の準備のための資金 | 30.0% | 結婚後の日常生活に係る費用              | 36.8% |
|     | 結婚生活のための住居取得費、新生活の準備のための資金 | 25.2% | 結婚後の日常生活に係る費用              | 22.0% | 結婚生活のための住居取得費、新生活の準備のための資金 | 21.1% |
|     | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用     | 18.7% | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用     | 20.0% | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用     | 17.5% |

※各順位について、回答の多かった 3 つまでを記載。

(%)

|     | 前回 全体 (N=59)           |       |
|-----|------------------------|-------|
| 1 位 | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用 | 42.4% |
|     | 挙式や新生活の準備のための資金        | 23.7% |
|     | 結婚後の生活に係る費用            | 16.9% |
|     | 結婚生活のための住居取得費          | 6.8%  |
| 2 位 | 結婚後の生活に係る費用            | 28.8% |
|     | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用 | 23.7% |
|     | 結婚生活のための住居取得費          | 20.3% |
|     | 挙式や新生活の準備のための資金        | 16.9% |
| 3 位 | 結婚後の生活に係る費用            | 25.4% |
|     | 挙式や新生活の準備のための資金        | 22.0% |
|     | 結婚生活のための住居取得費          | 20.3% |
|     | 子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用 | 13.6% |

問8-4 結婚する意向が高まると思う支援・環境（「未婚」の人：上位3つまで）

(%)

|    | 全体 (N=358)                 |       | 男性 (N=147)                 |                           | 女性 (N=211)                 |       |
|----|----------------------------|-------|----------------------------|---------------------------|----------------------------|-------|
| 1位 | 自分又はパートナーの雇用機会や収入が安定すること   | 27.1% | 自分又はパートナーの雇用機会や収入が安定すること   | 25.2%                     | 自分又はパートナーの雇用機会や収入が安定すること   | 28.4% |
|    | 結婚後の生活が具体的にイメージできること       | 18.2% | 異性との出会いの場の提供など結婚支援があること    | 21.8%                     | 結婚後の生活が具体的にイメージできること       | 20.4% |
|    | 異性との出会いの場の提供など結婚支援があること    | 16.5% | 結婚を希望する人を応援する社会的機運が醸成されること | 19.0%                     | 異性との出会いの場の提供など結婚支援があること    | 12.8% |
| 2位 | 自分又はパートナーの雇用機会や収入が安定すること   | 18.7% | 結婚後の生活が具体的にイメージできること       | 24.5%                     | 自分又はパートナーの雇用機会や収入が安定すること   | 19.0% |
|    | 結婚後の生活が具体的にイメージできること       | 17.6% | 自分又はパートナーの雇用機会や収入が安定すること   | 18.4%                     | 結婚を希望する人を応援する社会的機運が醸成されること | 14.2% |
|    | 住宅費の軽減などにより結婚後の住宅が確保できること  | 14.0% | 住宅費の軽減などにより結婚後の住宅が確保できること  | 15.6%                     | 結婚後の生活が具体的にイメージできること       | 12.8% |
|    | -                          | -     | -                          | -                         | 結婚後も希望すれば継続して就業できること       | 12.8% |
| -  | -                          | -     | -                          | 住宅費の軽減などにより結婚後の住宅が確保できること | 12.8%                      |       |
| 3位 | 住宅費の軽減などにより結婚後の住宅が確保できること  | 16.5% | 結婚後の生活が具体的にイメージできること       | 19.0%                     | 住宅費の軽減などにより結婚後の住宅が確保できること  | 16.1% |
|    | 結婚を希望する人を応援する社会的機運が醸成されること | 15.9% | 住宅費の軽減などにより結婚後の住宅が確保できること  | 17.0%                     | 結婚を希望する人を応援する社会的機運が醸成されること | 15.6% |
|    | 結婚後の生活が具体的にイメージできること       | 14.8% | 結婚を希望する人を応援する社会的機運が醸成されること | 16.3%                     | 結婚後の生活が具体的にイメージできること       | 11.8% |

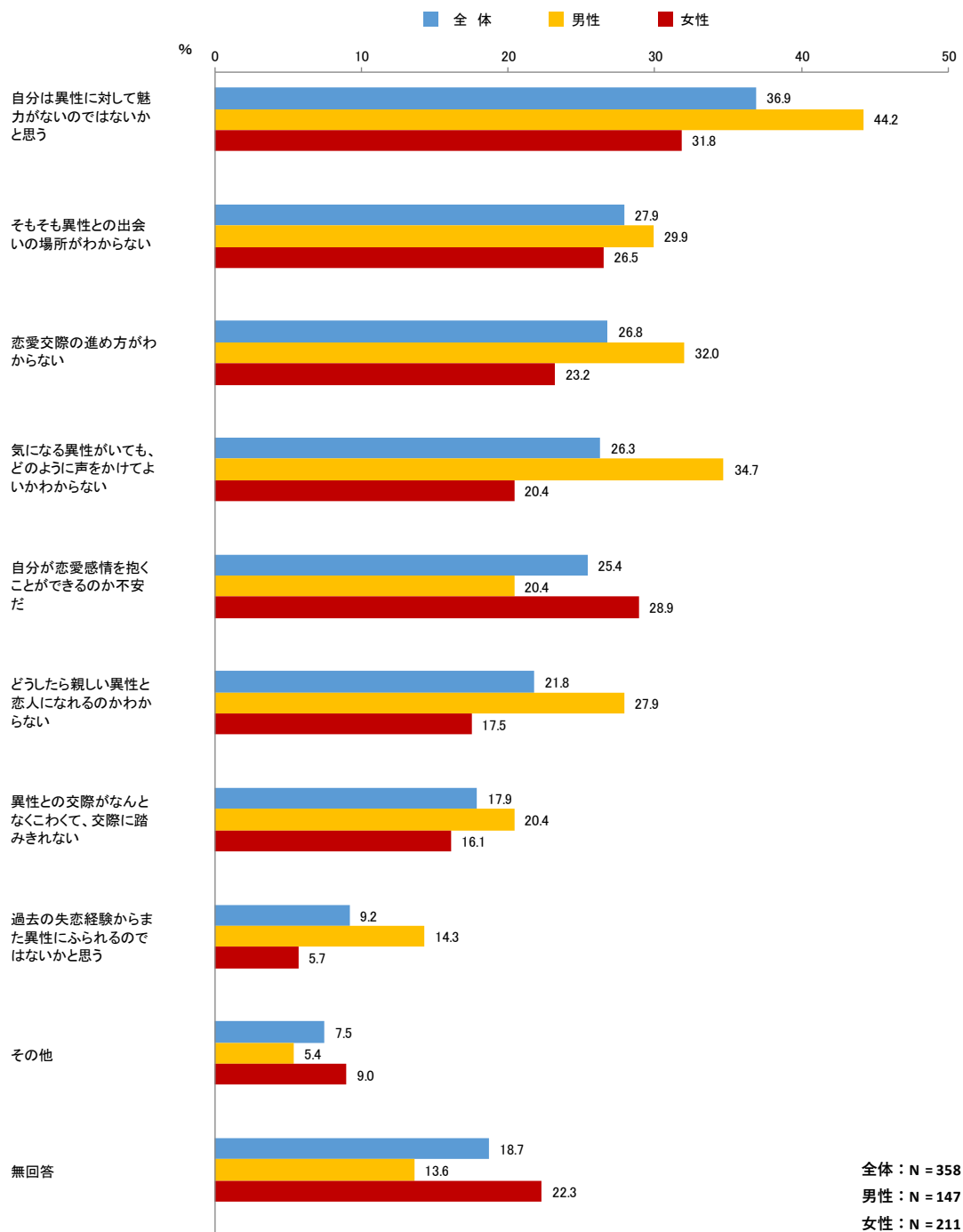
※各順位について、回答の多かった3つまでを記載。

問8-5 異性と交際するうえでの不安（「未婚」の人：複数回答）

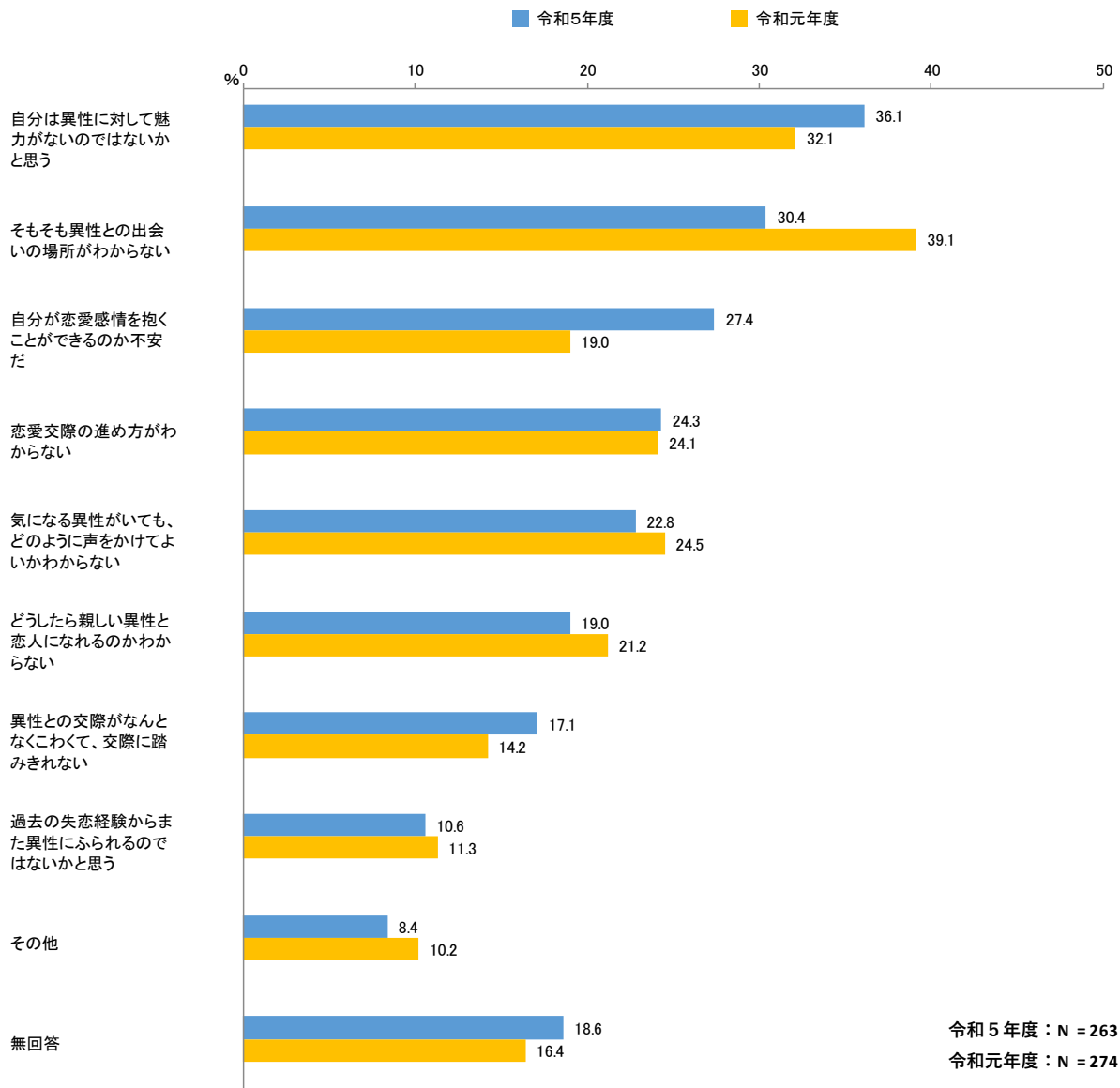
全体では、「自分は異性に対して魅力がないのではないかと思う」が36.9%と最も高く、次いで「そもそも異性との出会いの場所がわからない」が27.9%、「恋愛交際の進め方がわからない」が26.8%となっている。

性別で見ると、男女ともに「自分は異性に対して魅力がないのではないかと思う」が最も高いが、次いで男性では「気になる異性がいても、どのように声をかけてよいかわからない」が34.7%で高く、女性では「自分が恋愛感情を抱くことができるのか不安だ」が28.9%で高くなっている。

前回調査と比較すると、最も高かった「そもそも異性との出会いの場所がわからない」は2位（30.4%）に、次点の「自分は異性に対して魅力がないのではないかと思う」は1位（36.1%）に、それぞれ順位が逆転した。



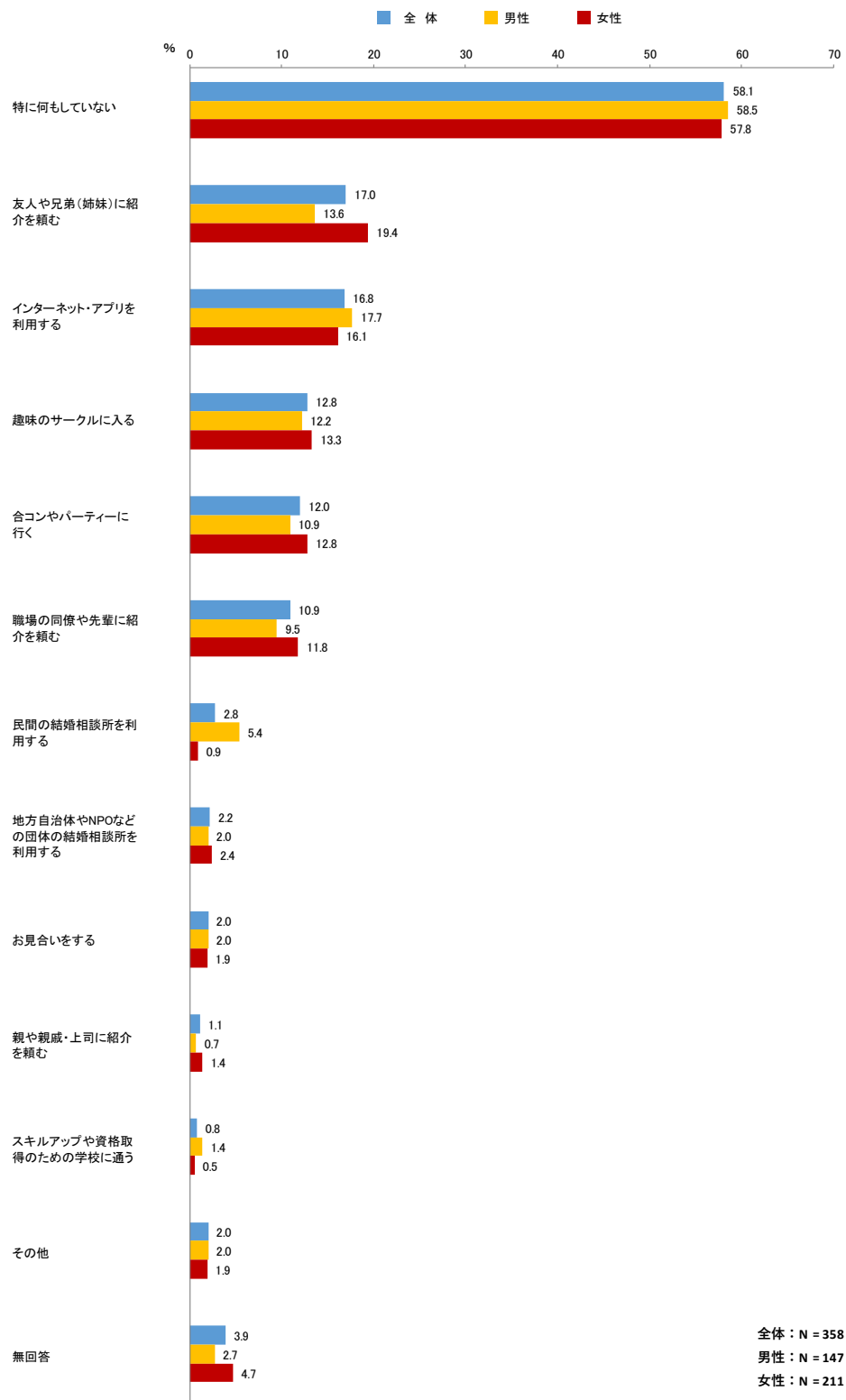




問9-1 婚活として行っていること（「未婚」の人：複数回答）

全体では、「特に何もしていない」が58.1%と最も高く、次いで「友人や兄弟（姉妹）に紹介を頼む」が17.0%、「インターネット・アプリを利用する」が16.8%となっている。

性別で見ると、男女ともに「特に何もしていない」が最も高いが、次いで男性では「インターネット・アプリを利用する」が17.7%で高く、女性では「友人や兄弟（姉妹）に紹介を頼む」が19.4%で高くなっている。



問9-2 特に何もしていない理由（問9-1で「特に何もしていない」を選んだ人：上位3つまで）

(%)

|    | 全体 (N=208)                    |       | 男性 (N=86)                     |       | 女性 (N=122)                    |       |
|----|-------------------------------|-------|-------------------------------|-------|-------------------------------|-------|
| 1位 | 既に交際相手がいるから                   | 19.7% | すぐに結婚したいとは考えていないから／まだ早いと感じるから | 20.9% | 既に交際相手がいるから                   | 22.1% |
|    | 必要性を感じないから                    | 18.3% | 既に交際相手がいるから                   | 16.3% | 必要性を感じないから                    | 21.3% |
|    | すぐに結婚したいとは考えていないから／まだ早いと感じるから | 17.8% | 必要性を感じないから                    | 14.0% | 自然に出会いたいから                    | 18.9% |
| 2位 | 必要性を感じないから                    | 21.2% | 必要性を感じないから                    | 18.6% | 必要性を感じないから                    | 23.0% |
|    | 仕事やプライベートを優先したいから             | 15.4% | 仕事やプライベートを優先したいから             | 14.0% | 仕事やプライベートを優先したいから             | 16.4% |
|    | すぐに結婚したいとは考えていないから／まだ早いと感じるから | 13.5% | すぐに結婚したいとは考えていないから／まだ早いと感じるから | 14.0% | すぐに結婚したいとは考えていないから／まだ早いと感じるから | 13.1% |
| 3位 | すぐに結婚したいとは考えていないから／まだ早いと感じるから | 11.5% | 自然に出会いたいから                    | 11.6% | すぐに結婚したいとは考えていないから／まだ早いと感じるから | 11.5% |
|    | 特に理由はない                       | 10.1% | すぐに結婚したいとは考えていないから／まだ早いと感じるから | 11.6% | 特に理由はない                       | 11.5% |
|    | 必要性を感じないから                    | 9.1%  | どうやって婚活をしたらよいかわからないから         | 9.3%  | 仕事やプライベートを優先したいから             | 9.8%  |
|    | -                             | -     | 必要性を感じないから                    | 9.3%  | -                             | -     |

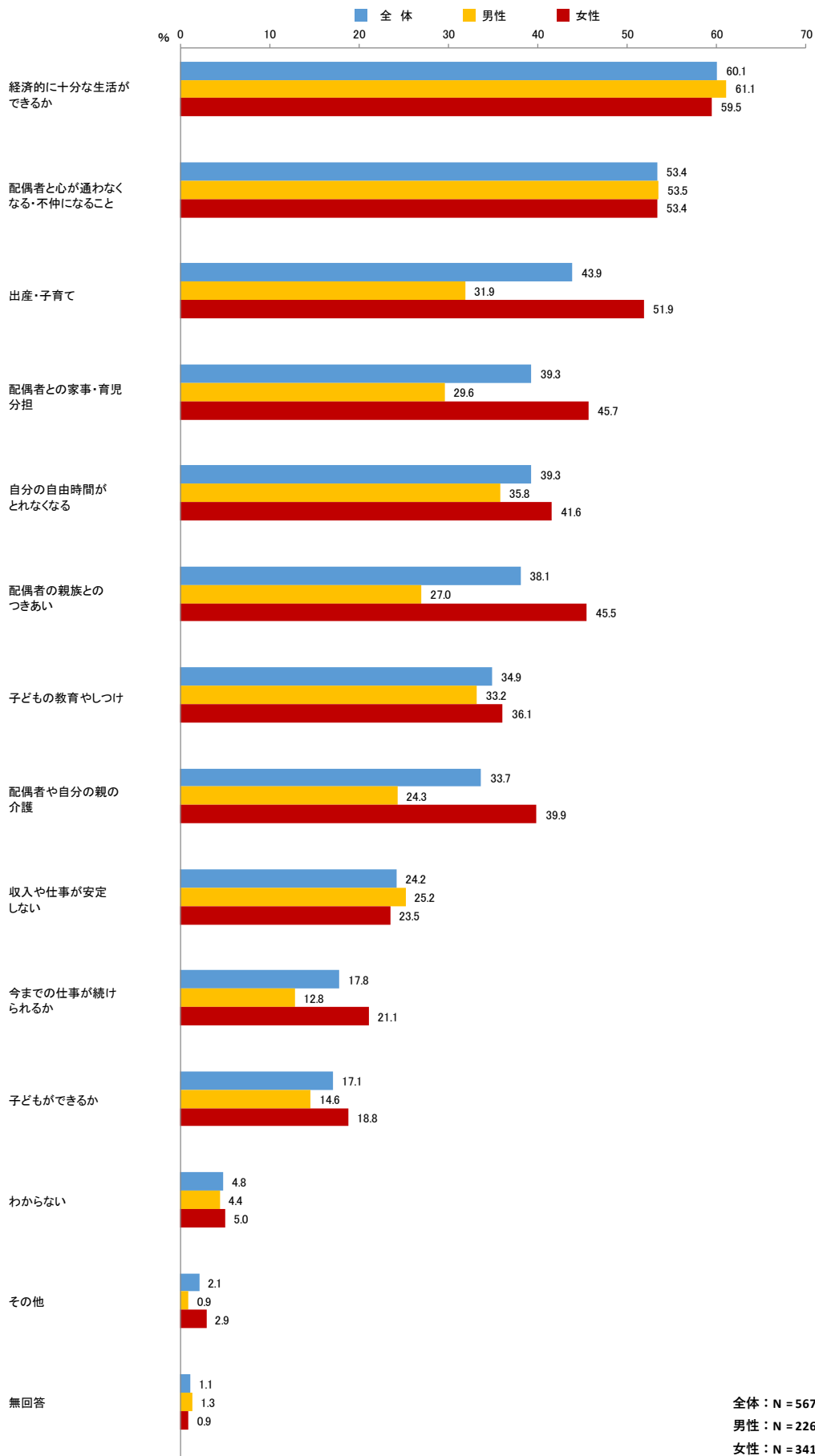
※各順位について、回答の多かった3つまでを記載。

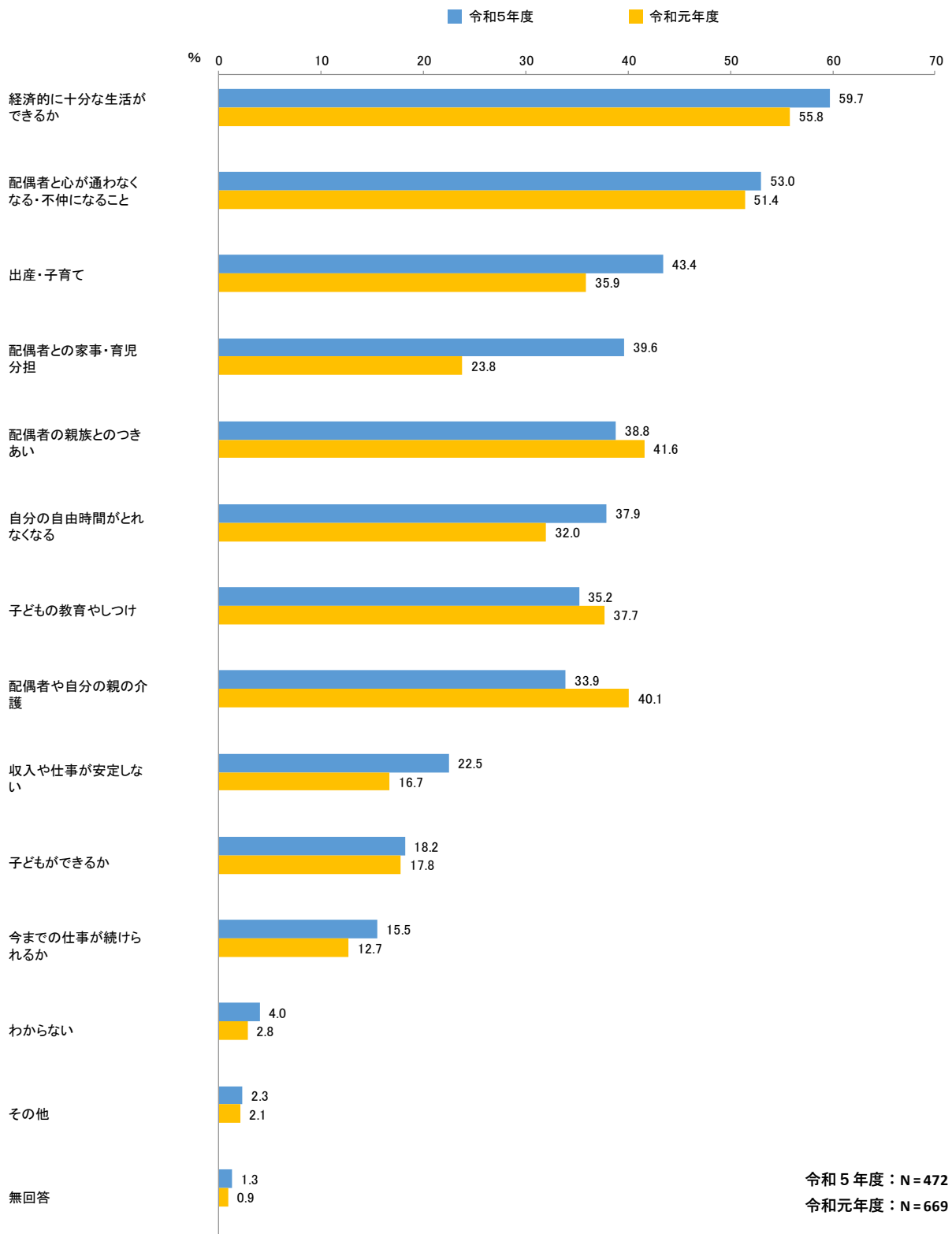
問 10 結婚生活を送っていくうえで不安に思っていること（複数回答）

**全体**では、「経済的に十分な生活ができるか」が 60.1%と最も高く、次いで「配偶者と心が通わなくなる・不仲になること」が 53.4%、「出産・子育て」が 43.9%となっている。

**性別**で見ると、「経済的に十分な生活ができるか」が男女ともに最も高いが、「出産・子育て」（男性：31.9%、女性：51.9%）、「配偶者の親族とのつきあい」（男性：27.0%、女性：45.5%）、「配偶者との家事・育児分担」（男性：29.6%、女性：45.7%）、「配偶者や自分の親の介護」（男性：24.3%、女性：39.9%）では、男女間の差が大きくなっている。

**前回調査**と比較すると、最も高かった「経済的に十分な生活ができるか」は同様に 1 位であり、次点の「配偶者と心が通わなくなる・不仲になること」も同様に 2 位であった。





問 11 未婚化、晩婚化の理由（上位3つまで）

(%)

|    | 全体 (N=567)                |       | 男性 (N=226)                   |       | 女性 (N=341)                |       |
|----|---------------------------|-------|------------------------------|-------|---------------------------|-------|
| 1位 | 独身生活のほうが自由だから             | 30.7% | 独身生活のほうが自由だから                | 32.7% | 独身生活のほうが自由だから             | 29.3% |
|    | 若者の経済的自立が難しくなったから         | 18.3% | 若者の経済的自立が難しくなったから            | 25.7% | 女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから | 16.4% |
|    | 女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから | 10.4% | 結婚に対する世間のこだわりが少なくなったから       | 8.0%  | 若者の経済的自立が難しくなったから         | 13.5% |
| 2位 | 結婚に対する世間のこだわりが少なくなったから    | 17.8% | 独身生活のほうが自由だから                | 20.8% | 結婚に対する世間のこだわりが少なくなったから    | 18.2% |
|    | 独身生活のほうが自由だから             | 16.0% | 結婚に対する世間のこだわりが少なくなったから       | 17.3% | 女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから | 17.9% |
|    | 女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから | 14.1% | 女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから    | 8.4%  | 独身生活のほうが自由だから             | 12.9% |
|    | -                         | -     | 適当な相手にめぐり会う機会が少ないから          | 8.4%  | -                         | -     |
| 3位 | 独身生活のほうが自由だから             | 13.4% | 適当な相手にめぐり会う機会が少ないから          | 14.2% | 独身生活のほうが自由だから             | 13.5% |
|    | 結婚に対する世間のこだわりが少なくなったから    | 12.7% | 独身生活のほうが自由だから                | 13.3% | 結婚に対する世間のこだわりが少なくなったから    | 13.5% |
|    | 適当な相手にめぐり会う機会が少ないから       | 10.8% | 恋愛や交際に消極的な男性（いわゆる草食男子）が増えたから | 11.9% | 女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから | 11.4% |

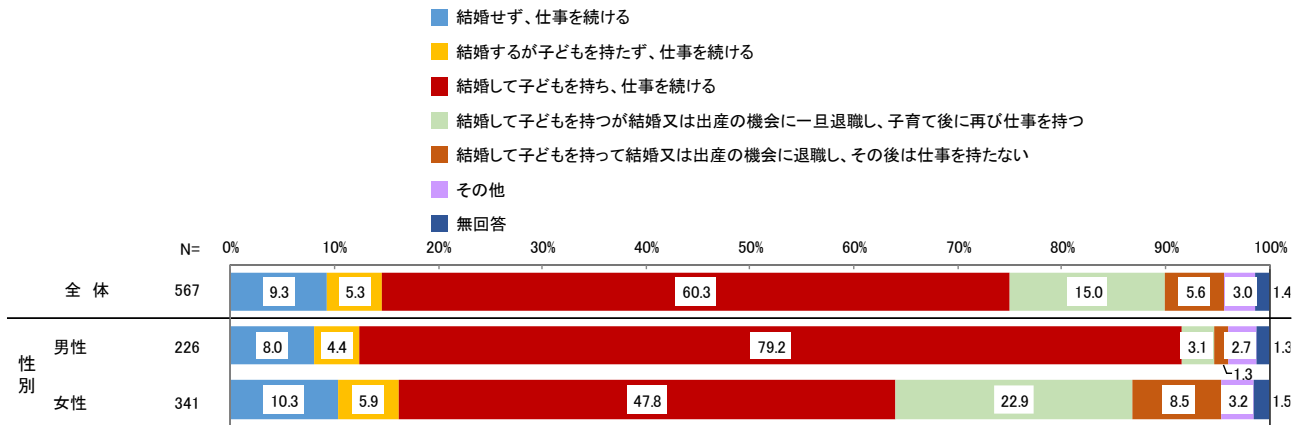
※各順位について、回答の多かった3つまでを記載。

(%)

|                | 前回 全体 (N=669)                |       |
|----------------|------------------------------|-------|
| 複数回答<br>(3つまで) | 独身生活のほうが自由だから                | 48.0% |
|                | 結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなったから  | 34.8% |
|                | 女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから    | 28.1% |
|                | 仕事をもつ女性が増えて、女性の経済力が向上したから    | 27.5% |
|                | 適当な相手にめぐりあう機会が少ないから          | 26.9% |
|                | 若者の経済的自立が難しくなったから            | 22.6% |
|                | 恋愛や交際に消極的な男性（いわゆる草食男子）が増えたから | 19.9% |
|                | 仕事のためには、独身のほうが都合がよいから        | 11.1% |
|                | 社会慣行としての見合いが減少したから           | 7.3%  |
|                | 若者の親離れ・親の子離れができていないから        | 6.9%  |
|                | 高学歴社会になったから                  | 4.5%  |
| その他            | 4.9%                         |       |

問 12- 1 自身が理想とする生き方

**全体**では、「結婚して子どもを持ち、仕事を続ける」が 60.3%と最も高く、次いで「結婚して子どもを持つが結婚又は出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が 15.0%、「結婚せず、仕事を続ける」が 9.3%となっている。  
**性別**で見ると、男女ともに「結婚して子どもを持ち、仕事を続ける」が最も高いが、男性は 79.2%、女性は 47.8%と 30 ポイント以上の差がある。次いで男性では「結婚せず、仕事を続ける」が 8.0%で高く、女性では「結婚して子どもを持つが結婚又は出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が 22.9%で高くなっている。



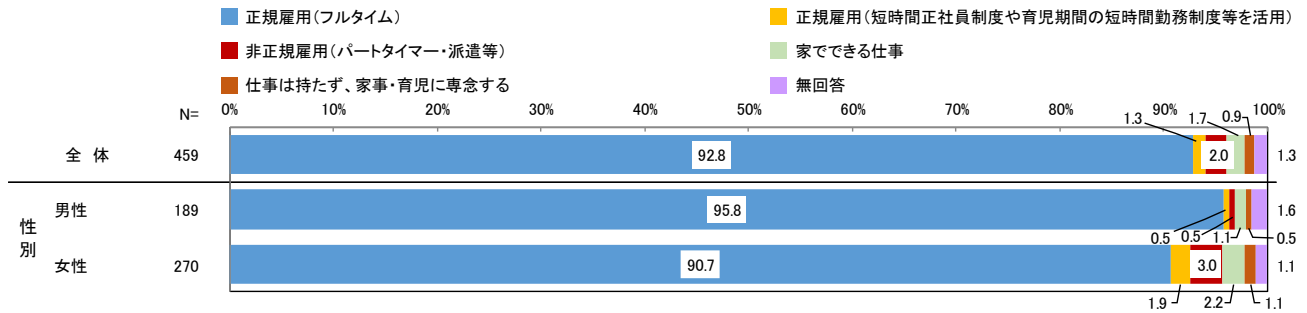


問 12-2 自身の理想とする結婚後の働き方（問 12-1 で「子どもを持つ」を選んだ人）

結婚して子どもがいないとき

全体では、「正規雇用（フルタイム）」が 92.8%と最も高く、次いで「非正規雇用（パートタイマー・派遣等）」が 2.0%、「家でできる仕事」が 1.7%となっている。

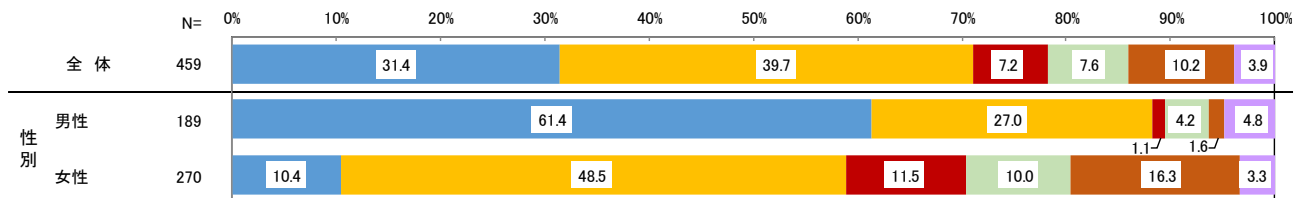
性別で見ると、男女ともに「正規雇用（フルタイム）」が最も高いが、男性（95.8%）が女性（90.7%）より 5.1 ポイント高くなっている。



子どもが小学校入学前

全体では、「正規雇用（短時間正社員制度や育児期間の短時間勤務制度等を活用）」が 39.7%と最も高く、次いで「正規雇用（フルタイム）」が 31.4%、「仕事は持たず、家事・育児に専念する」が 10.2%となっている。

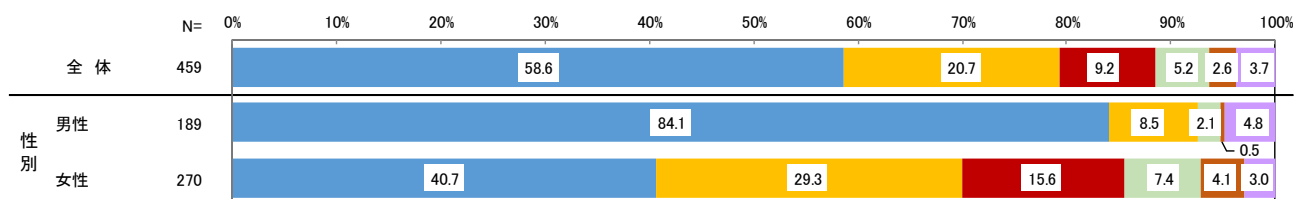
性別で見ると、男性では「正規雇用（フルタイム）」が 61.4%で最も高い一方で、女性では「正規雇用（短時間正社員制度や育児期間の短時間勤務制度等を活用）」が 48.5%で最も高くなっている。



子どもが小学校入学後

全体では、「正規雇用（フルタイム）」が 58.6%と最も高く、次いで「正規雇用（短時間正社員制度や育児期間の短時間勤務制度等を活用）」が 20.7%、「非正規雇用（パートタイマー・派遣等）」が 9.2%となっている。

性別で見ると、「正規雇用（フルタイム）」が男女ともに最も高いが、男性（84.1%）が女性（40.7%）より 43.4 ポイント高くなっている。

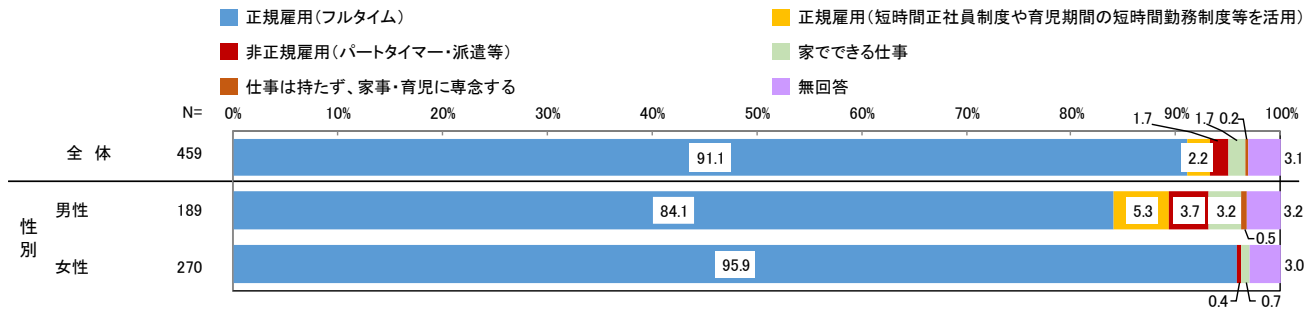


問 12-2 配偶者に望む結婚後の働き方（問 12-1 で「子どもを持つ」を選んだ人）

結婚して子どもがいないとき

全体では、「正規雇用（フルタイム）」が 91.1%と最も高く、次いで「正規雇用（短時間正社員制度や育児期間の短時間勤務制度等を活用）」が 2.2%となっている。

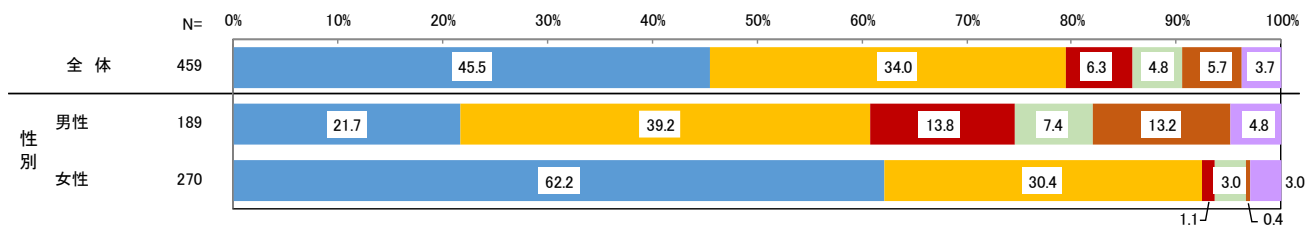
性別で見ると、男女ともに「正規雇用（フルタイム）」が最も高いが、女性（95.9%）が男性（84.1%）より 11.8ポイント高くなっている。



子どもが小学校入学前

全体では、「正規雇用（フルタイム）」が 45.5%と最も高く、次いで「正規雇用（短時間正社員制度や育児期間の短時間勤務制度等を活用）」が 34.0%、「非正規雇用（パートタイマー・派遣等）」が 6.3%となっている。

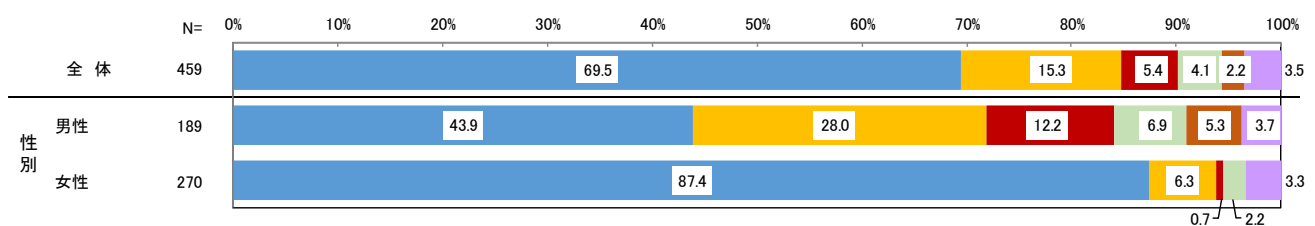
性別で見ると、男性では「正規雇用（短時間正社員制度や育児期間の短時間勤務制度等を活用）」が 39.2%で最も高い一方で、女性では「正規雇用（フルタイム）」が 62.2%で最も高くなっている。



子どもが小学校入学後

全体では、「正規雇用（フルタイム）」が 69.5%と最も高く、次いで「正規雇用（短時間正社員制度や育児期間の短時間勤務制度等を活用）」が 15.3%、「非正規雇用（パートタイマー・派遣等）」が 5.4%となっている。

性別で見ると、「正規雇用（フルタイム）」が男女ともに最も高いが、女性（87.4%）が男性（43.9%）より 43.5ポイント高くなっている。

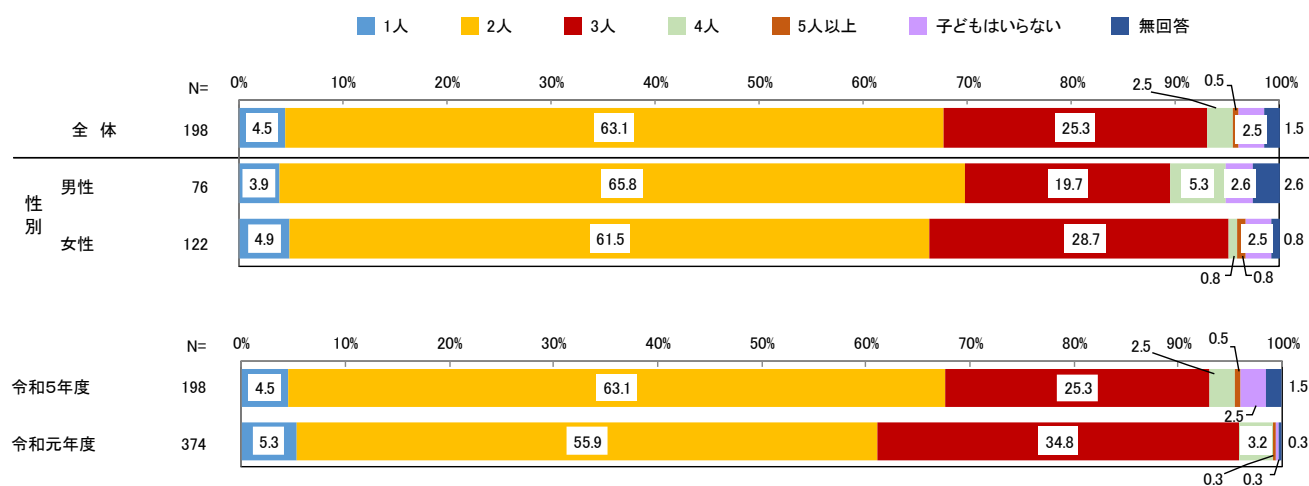


問 13- 1 夫婦にとって理想的な子どもの数（「結婚している」人）

全体では、「2人」が63.1%と最も高く、次いで「3人」が25.3%、「1人」が4.5%となっている。

性別で見ると、「2人」が男女ともに最も高く、男性（65.8%）が女性（61.5%）より4.3ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、「3人」は9.5ポイント減少し、「2人」は7.2ポイント増加した。

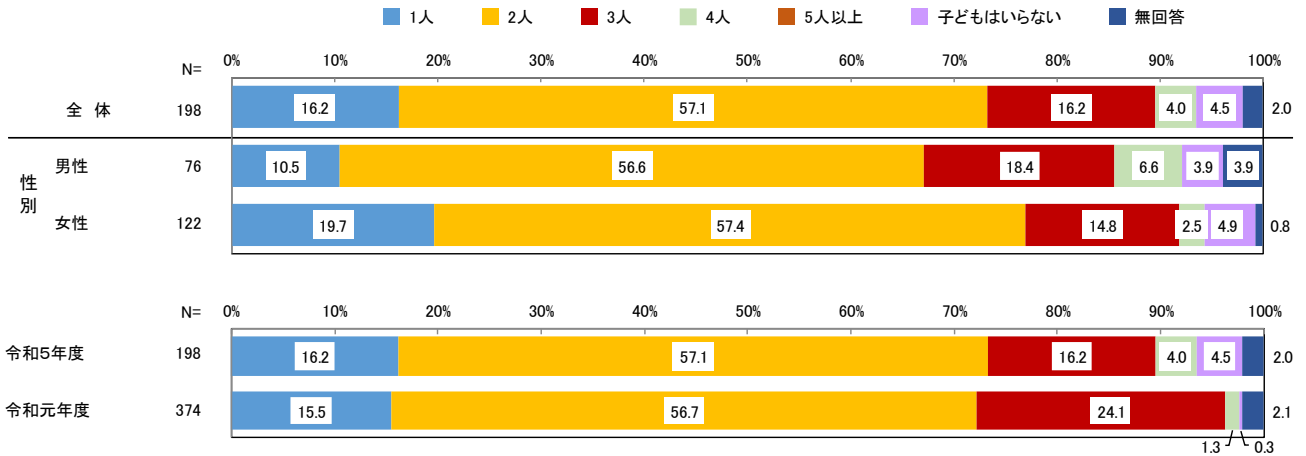


問 13-2 実際に持つつもりの子どもの数（「結婚している」人）

全体では、「2人」が57.1%と最も高く、次いで「1人」及び「3人」が16.2%となっている。

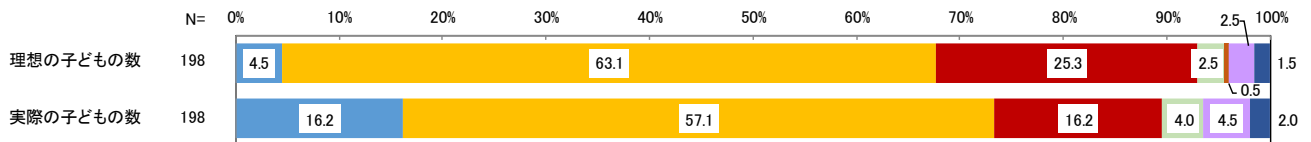
性別で見ると、男女ともに「2人」が最も高いが、次いで男性では「3人」が18.4%で高く、女性では「1人」が19.7%で高くなっている。

前回調査と比較すると、「3人」は7.9ポイント減少し、「子どもはいらない」は4.2ポイント増加した。



【理想的な子どもの数と実際に持つつもりの子どもの数の比較（「結婚している」人）】

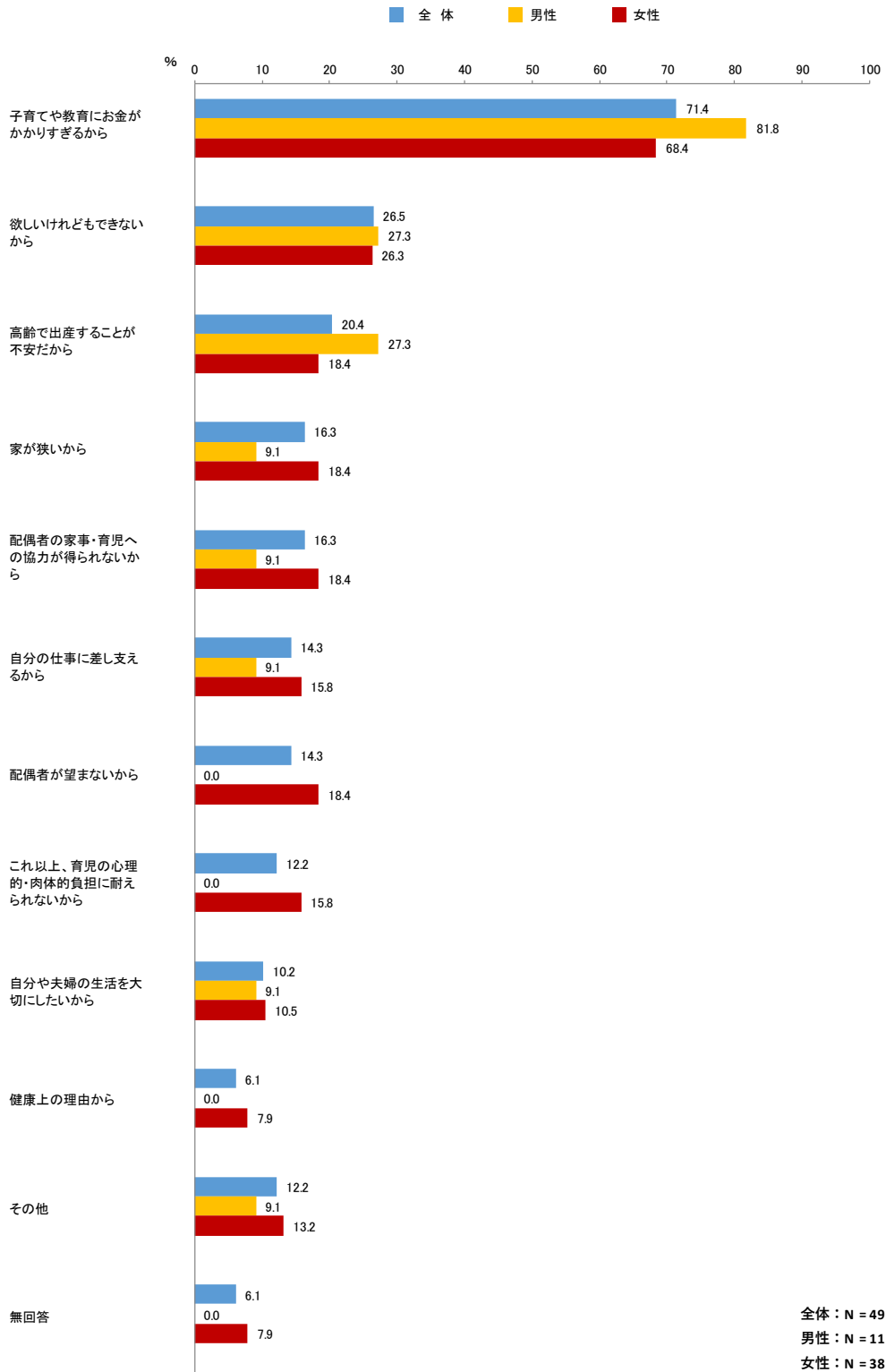
理想的な子どもの数と実際に持つつもりの子どもの数を比較すると、全体的に実際の方が子どもの数が少なくなる傾向となっており、実際に持つつもりの子どもの数に「5人以上」と答える人はいなかった。また、子どもの数を「1人」と回答する割合は、理想よりも実際の方が11.7ポイント高い。



問 13-3 実際に持つつもりの子どもの数が、理想的な子どもの数より少ない理由（問 13-2 の答えが問 13-1 の答えより少ない人：複数回答）

全体では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 71.4%と最も高く、次いで「欲しいけれどもできないから」が 26.5%、「高齢で出産することが不安だから」が 20.4%となっている。

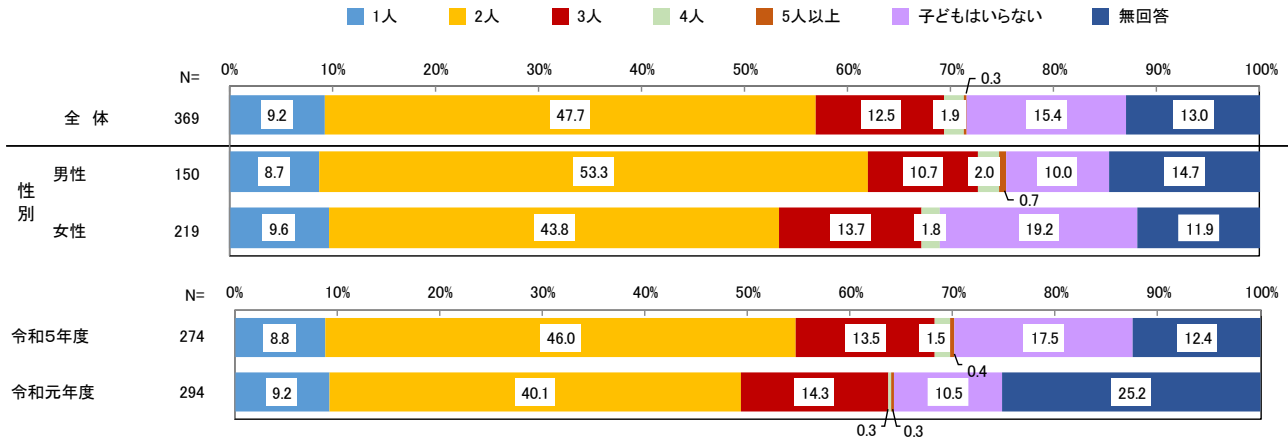
性別で見ると、男女ともに「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。



問 14 ほしい子どもの数（「結婚していたが、死別・離別した」「今まで結婚したことはない」人）

全体では、「2人」が47.7%と最も高く、次いで「子どもはいらない」が15.4%、「3人」が12.5%となっている。  
性別で見ると、男女ともに「2人」が最も高いが、次いで男性では「3人」が10.7%で高く、女性では「子どもはいらない」が19.2%で高くなっている。

前回調査と比較すると、「子どもはいらない」は7.0ポイント増加、「2人」は5.9ポイント増加した。

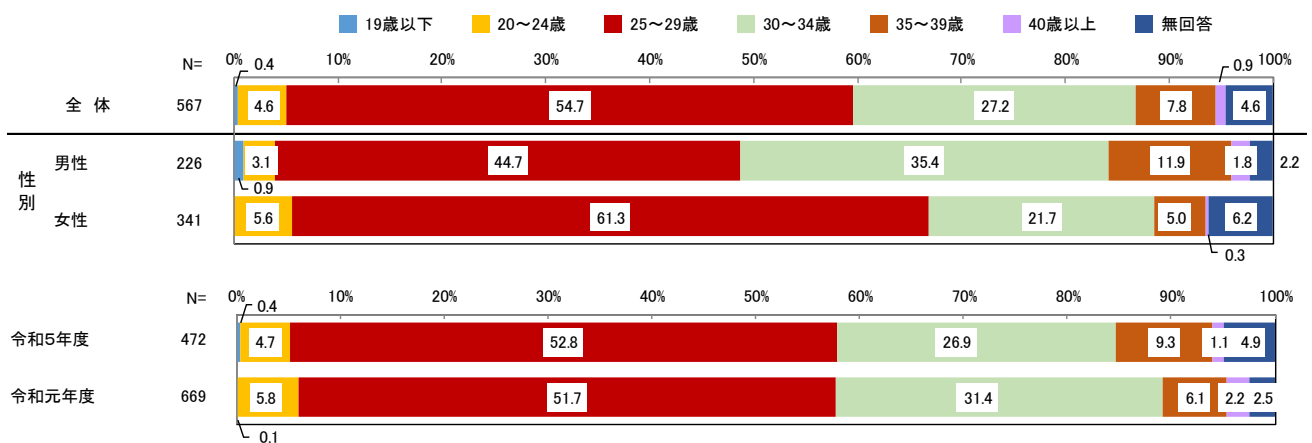


問 15 子ども（第1子）を持ちたい理想の年齢

全体では、「25～29歳」が54.7%と最も高く、次いで「30～34歳」が27.2%、「35～39歳」が7.8%となっている。

性別で見ると、「25～29歳」が男女ともに最も高く、女性（61.3%）が男性（44.7%）より16.6ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、「35～39歳」は3.2ポイント増加し、「30～34歳」は4.5ポイント減少した。

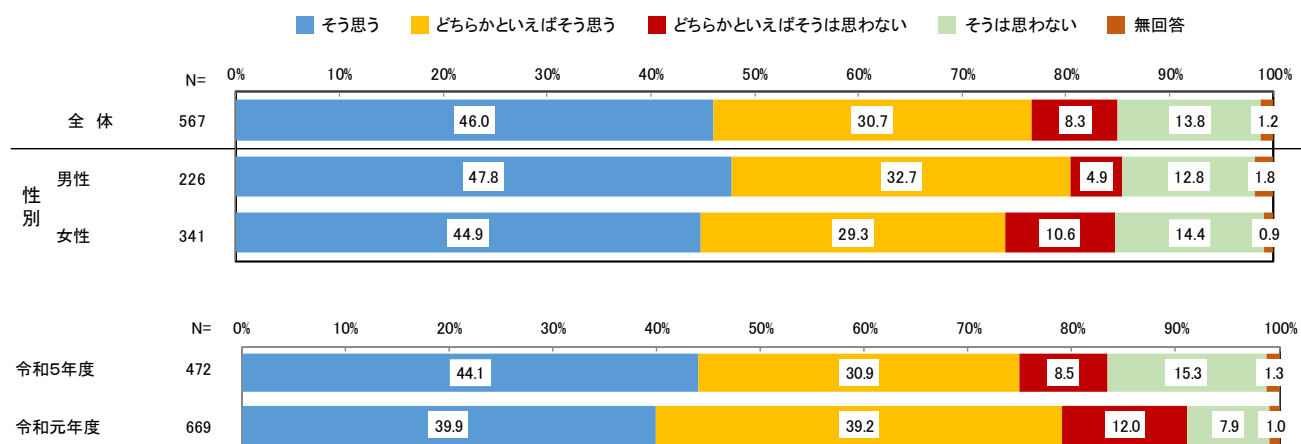


問 16 国や自治体の少子化対策の拡充により「（もう1人）子どもが欲しい」という気持ちになるか

**全体**では、「そう思う」が 46.0%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 30.7%となっており、肯定的な回答が7割を超えている。

**性別**で見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答は、男性（80.5%）が女性（74.2%）より6.3ポイント高くなっている。

**前回調査**と比較すると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、前回は 79.1%、今回は 75.0%と4.1ポイント減少した。



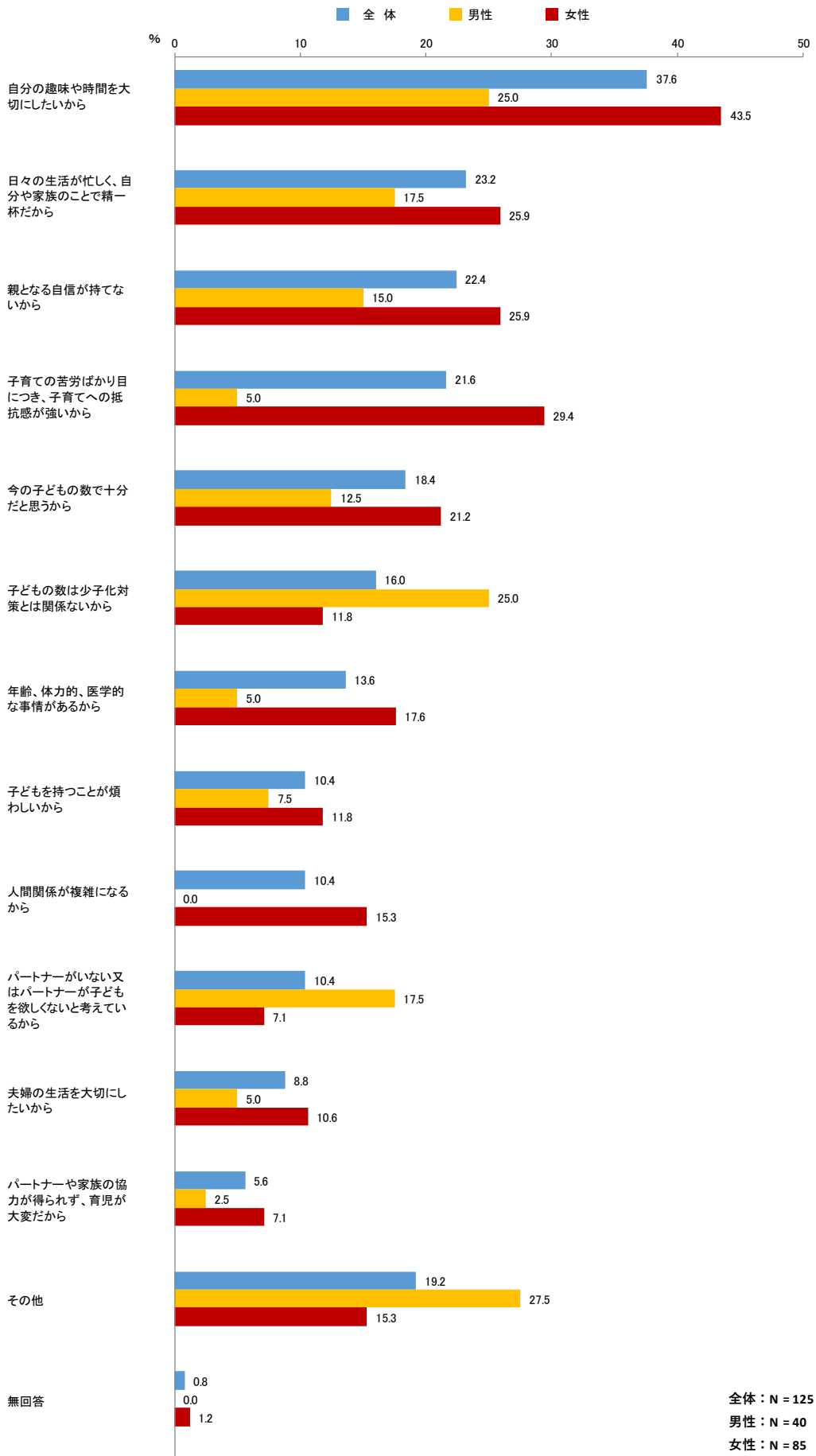
問 17 「（もう1人）子どもが欲しい」という気持ちにならない理由（問 16 で「どちらかといえばそうは思わない」「そうは思わない」を選んだ人：複数回答）

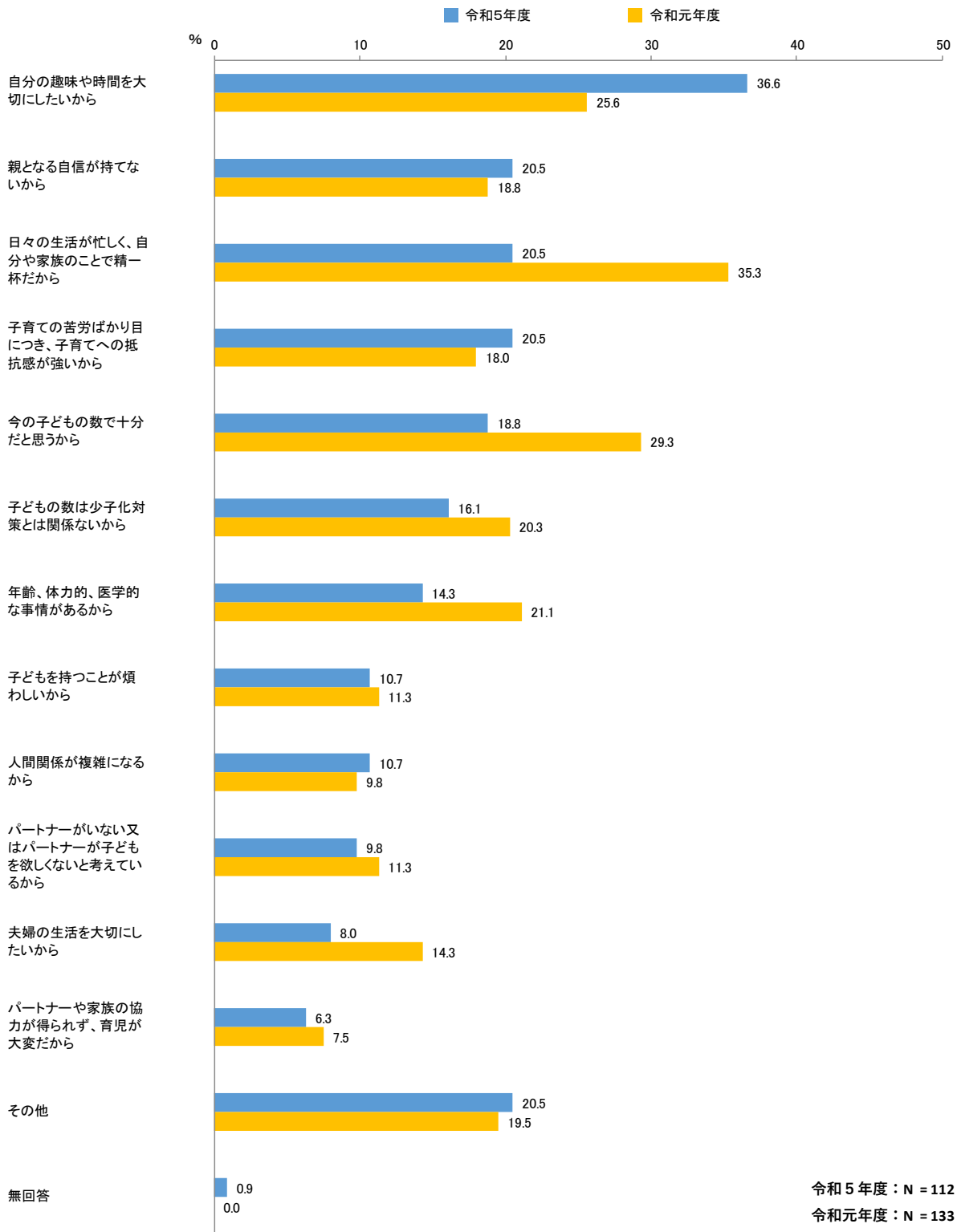
**全体**では、「自分の趣味や時間を大切にしたいから」が 37.6%と最も高く、次いで「日々の生活が忙しく、自分や家族のことで精一杯だから」が 23.2%、「親となる自信が持てないから」が 22.4%となっている。

**性別**で見ると、男性では「自分の趣味や時間を大切にしたいから」「子どもの数は少子化対策とは関係ないから」が 25.0%、女性では「自分の趣味や時間を大切にしたいから」が 43.5%で最も高くなっている。

**前回調査**と比較すると、最も高かった「日々の生活が忙しく、自分や家族のことで精一杯だから」は今回 2 位となり、次点の「今の子ども数で十分だと思うから」は今回 5 位となった。前回 3 位の「自分の趣味や時間を大切にしたいから」は今回 1 位となった。





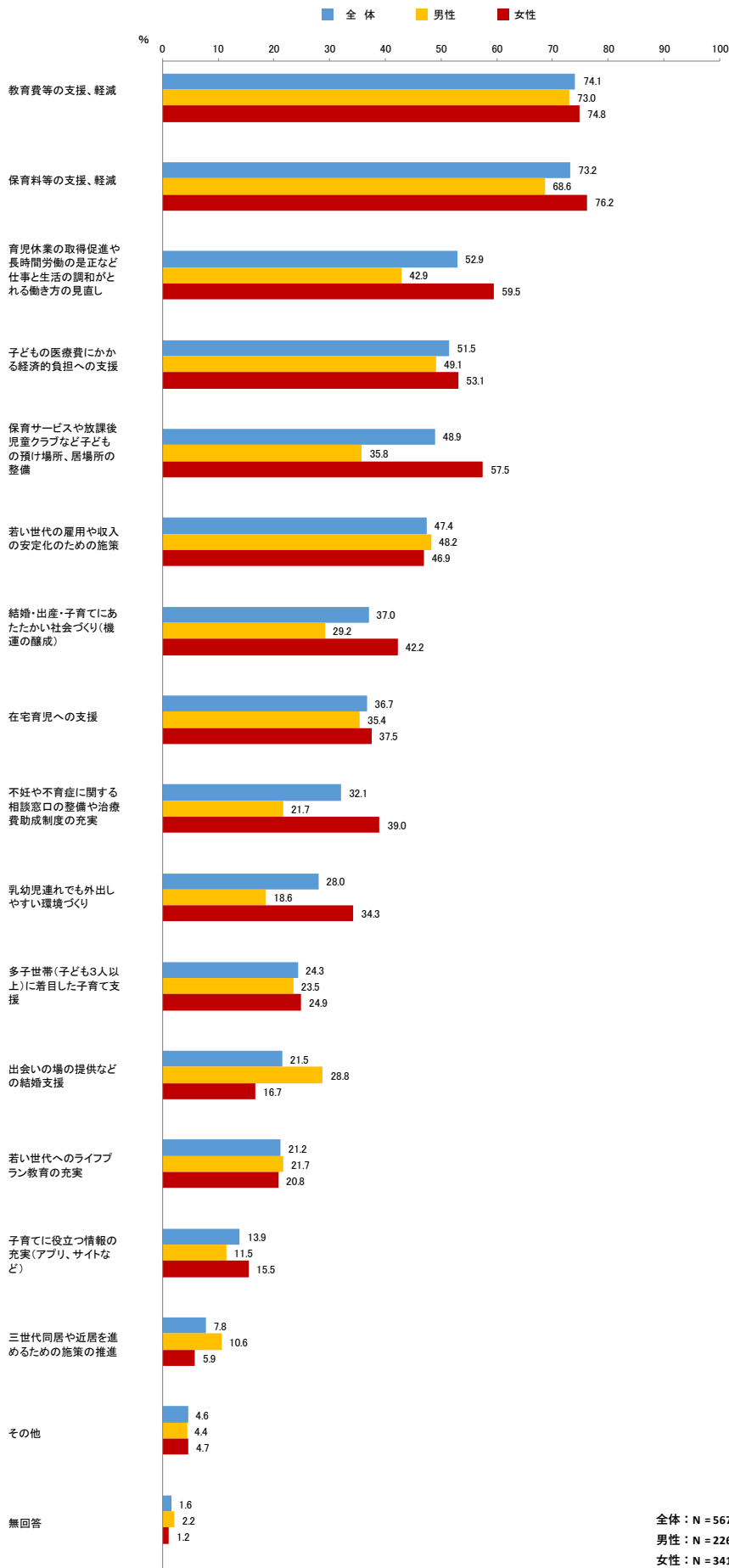


問 18 行政が、結婚から妊娠・出産、子育て支援までの少子化対策で拡充すべき施策（複数回答）

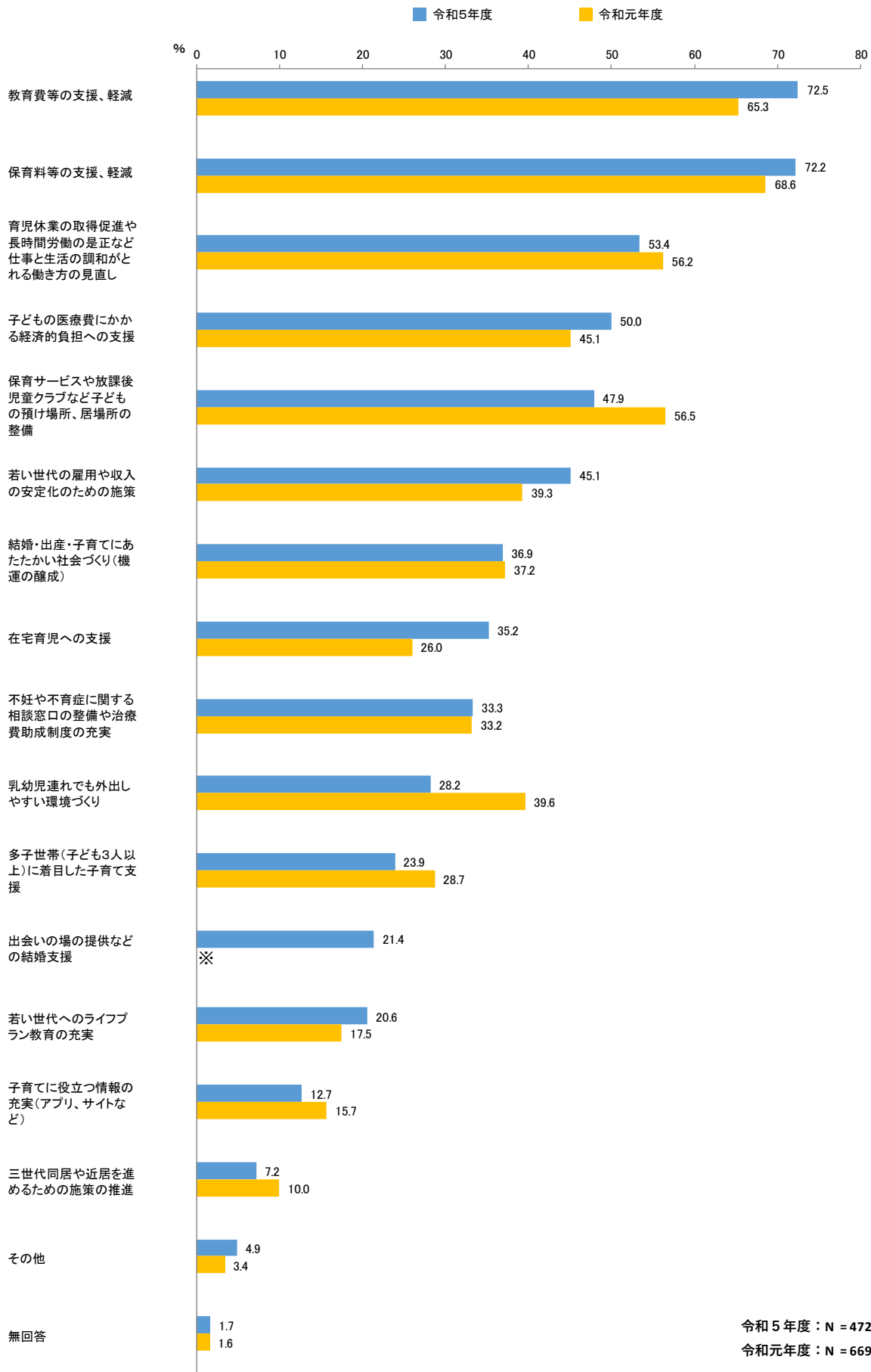
**全体**では、「教育費等の支援、軽減」が 74.1%と最も高く、次いで「保育料等の支援、軽減」が 73.2%、「育児休業の取得促進や長時間労働の是正など仕事と生活の調和がとれる働き方の見直し」が 52.9%となっている。

**性別**で見ると、「教育費等の支援、軽減」が男性では1位（73.0%）、女性では2位（74.8%）、「保育料等の支援、軽減」が男性では2位（68.6%）、女性では1位（76.2%）となっており、類似した施策が男女ともに高くなっている。

**前回調査**と比較すると、最も高かった「保育料等の支援、軽減」は今回2位、次点の「教育費等の支援、軽減」は今回1位と、それぞれ順位が逆転した。



全体：N = 567  
 男性：N = 226  
 女性：N = 341



令和5年度：N = 472

令和元年度：N = 669

※前回調査項目なし